

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子、加倉井 佳世子、浜野 範子、矢部 尚子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	01
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	学芸総合演習		
担当教員名	三好 節		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

国語科授業の実践的スキルを身につける選択科目である。他の履修科目の初等国語科教育・教材研究（国語科）から指導案作成や教材研究のポイントを学び、それらを生かしながら学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

#### 科目の概要

小学校国語科（2年・3年・4年）の教材を中心に、教材研究を生かし、単元構成を考えながら学習指導案を作成し、模擬授業（発問の在り方・板書の仕方等）を行い、小学校現場における国語科授業に直接役立たせるものである。

#### 学修目標（＝到達目標）

小学校国語科の目標（読むこと）の指導のあり方を意識し、教材研究や模擬授業を通して学修する。

小学校国語科授業における実践的指導スキルを身につける。

小学校国語科授業（文学的文章・説明的文章）の指導のあり方、発問や板書等に関する理解を深める。

#### 内容

1	小学校国語科授業の在り方
2	小学校国語科授業の問題点
3	第2学年国語科教材研究（文学的文章）
4	第2学年国語科学習指導案作成（文学的文章）
5	第2学年国語科模擬授業と評価
6	第2学年国語科模擬授業と評価
7	第3学年国語科教材研究（説明的文章）
8	第3学年国語科学習指導案作成（説明的文章）
9	第3学年国語科模擬授業と評価
10	第3学年国語科模擬授業と評価
11	第4学年国語科教材研究（文学的文章）
12	第4学年国語科学習指導案作成（文学的文章）
13	第4学年国語科模擬授業と評価
14	第4学年国語科模擬授業と評価
15	小学校国語科授業の在り方のまとめ

#### 評価

ミニレポート30%、模擬授業への参加度30%、最終レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】教材の音読・模擬授業前の板書計画

【事後学修】主発問の記録と整理

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文科省検定済教科書 光村図書 第2学年用上下、第3学年用上下、第4学年用上下  
小学校学習指導要領解説 国語科（文科省）東洋館出版

【推薦書】

【参考図書】

科目名	教職入門		
担当教員名	宮川 保之、増田 吉史、高橋 京子、狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

「教職入門」は、教育職員免許法に定められた教職科目（「教職の意義等に関する科目」）で、教育職員免許状を取得（大学で教職課程を履修し、指定の単位認定を受ける）ための入口にあたる教科です。講義内容は「教職の意義及び教員の役割」「教員の職務内容（研修、服務、及び身分保障等を含む）」「進路選択に資する各種の機会の提供」などです。

#### 科目の概要

受講対象は、小学校教員を目指す1年生（児童教育学科）です。前期に、最初の教職科目として、体験や事前の予習を元に、「教師の仕事とは何か」ということをさまざまな角度から学修します。

この科目を履修した後に、教育の原理や原則に関する科目（教育学概論）、教育の社会的事項に関する科目（学校関係法規）、教育の心理に関する科目（教育心理学）を学修します。

#### 学修目標（＝到達目標）

具体的な内容は、教職の基礎理論についての理解を深めること、教員や学校を取り巻く実情についての理解を深めること、課題等技法や問題解決討議法、事例研究法（インシデント・プロセス法）などを援用し、成果の発表や協議を行ったり、それらの成果をもとに新たな課題を追求したりできるようになることをねらいとしています。

#### 内容

教師の使命を果たすために不可欠な資質や能力を身に付けるための基礎的な知識や技能を修得し、これを活用して、種々の教育課題を追究したり、課題解決のための方途を検討します。授業の到達目標は、教職の意義、教員の役割、職務内容、研修・研究等の基礎的・基本的な事項について、情報を収集し、説明できる。自らの能力・適性について省察し、教職課程の履修を確実に進めるための展望を表明できる。教員免許取得に向けた教職課程の履修に係る学習計画を立て、その筋道を説明できる。

1	教職の意義・魅力と教師像（私が出会った教師と目指す教師像と自らの生き方）
2	学校教育の最新事情と教員への期待（これからの学校教育と教員としての識見）
3	教員の資格と教員養成（求められる資質・能力と履修）
4	学校と教職の歴史（教職の成立と教職観の変遷）
5	学校教育と教員の役割（学校教育の目的、教員の役割と使命、女性教員への期待）
6	教職に特性と教職観の形成（職業としての教職の特異性と専門性の追究）
7	教員の職務とその遂行（社会の木鐸として、教員の仕事と生活の充実）
8	教員の教育活動1（教育課程の構造とその編成・実施・実施・評価・改善）
9	教員の教育活動2（学習と教授、計画・準備・実践・評価・改善の方途）
10	教員の教育活動3（学級担任としての職務と学級運営、健全育成と生徒指導の推進）
11	学校に必要な教員の専門性（種別）と職務（学校運営と校務分掌組織、組織マネジメント）
12	教員の任免と服務規律（教員の身分、教員文化と職場環境の創造と適応）
13	教員の資質能力の向上と教員研修制度（教員研修と教育研究の意義と力量形成）
14	高度専門職業人として社会の期待に応えるための学び（教員として必要不可欠な資質・能力）

**評価**

各回での学習票（小レポート）30点、事例研究等の成果物（小レポート）30点、最終試験（40点）を総合して、単位を認定します。

**授業外学習**

- 【事前予習】各回毎に、教科書や参考図書などを参照し、問題解決討議や事例研究に必要な情報を整理（メモ）を用意する。
- 【事後学修】各回毎に、修得した知識や問題解決技法等を記録する。また、授業で取上げた自連問題等について考究し、レポートにまとめ、次の講義の冒頭に提出する。

**教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）**

【教科書】 「小学校学習指導要領（平成20年3月文部科学省告示） 中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」（平成24年8月28日）

【推薦書】 横須賀薫著「教員養成 これまでこれから」ジヤース教育出版刊 齋藤善博編著「島小の女教師」明治図書出版

【参考図書】 中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」（平成17年10月26日） 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（平成20年1月17日）

科目名	教育学概論		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

本科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に挙げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義を行ないます。

これから4年間にわたって教職科目を受講していく、もっとも最初の1年生後期に「教育の基礎を学ぶ科目」として開講されます。1年の前期に学修した「教育者論」に続いて、先生になるための勉強をすることになります。

講義では、「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目にしたがって取り上げます。

教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基本事項に関する理解を深めること、受講生同士が討論しあったり、課題を追究したり、発表しあったりすることができること、テキストをもとに自己の課題を認識し、その内容を深めたり、研究したりすることができること、などがねらいです。

#### 内容

以下、講義内容を項目ごとに書いておきます ( 順不同 )。

テキストの構成とほぼ重なっています。

1. 学ぶことと教えること
2. 育つことと育てること
3. 学校の登場
4. 近代学校の性格
5. 日本の学校
6. 学力とは何か
7. 教科と道徳教育
8. 教育の内容と方法
9. 教育評価
10. 学校の可能性
11. 青年の教育
12. 生涯学習と社会教育
13. 子どもの権利とは何か
14. 十文字学園の創設と近代女子教育の流れ
15. まとめ

#### 評価

講義で毎回書いてもらう小レポート ( 20点 )、試験・レポート等 ( 80点 ) などを総合して評価します。

#### 授業外学習

【事前予習】テキストを読み、概要を把握し、疑問点を整理して、講義に持参します。

【事後学修】班発表の内容や班討論の内容を整理し、各自の振り返りレポートを作成します。次回提出して下さい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト（教科書）】田嶋一他著 『やさしい教育原理（新版）』 有斐閣アルマ

【推薦書】斎藤喜博 『授業入門（新装判）』 国土社

ルソー 『エミール（改版）上』 岩波文庫

シング 『狼に育てられた子』 福村出版

【参考図書】テキストの参考文献の他、教室で紹介します。

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

人間発達心理学の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

### 科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

### 学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動を客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

## 内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

## 評価

筆記試験：90点，授業内課題：10点の計100点で、60点以上を合格とする。



## 授業外学習

【事前予習】事前に配布される課題問題をもとに教科書を読み解答をしておくこと

【事後学修】授業ないで使用/記入したプリントをノートにまとめ直す

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は教職ガイダンスなどで事前に指示する。

科目名	学校関係法規		
担当教員名	黒瀬 任通、廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の学生にとっては、「学科専門必修科目」である。

また、教員免許状の取得を希望する学生にとっては、免許取得のためには「必修科目」である。

#### 科目の概要

- 1 毎回の授業ごとに、プリントやノートにまとめたり、考えを記述したりして、学校教育や教育法規等について自分の考えを持つ。
- 2 基本的な学校関係法規についての学修を通して、我が国の学校教育に関する制度やしきみ、また、教育の実施について基本についての理解を深めていく。

#### 学修目標（＝到達目標）

- 1 学校教育に関する基本的な法規と制度について理解する。
- 2 教育法規に関する学習を通して、日本の教育制度についての自分の考えが持てる。

#### 内容

1	ガイダンス。 教育の目的及び理念等に関する事項、及び法規
2	教育の実施に関わる基本的なこと等に関する事項、及び法規
3	学校の種類・設置等に関する事項、及び法規
4	教育行政機関のしくみ等に関する事項、及び法規
5	学校教育の目的・目標等に関する事項、及び法規
6	学習指導要領等に関する事項、及び法規
7	教育課程の編成等に関する事項、及び法規
8	教科書（教科用図書）等の教材に関する事項、及び法規
9	教職員の組織・職務等に関する事項、及び法規
10	教職員の人事・サービス等に関する事項、及び法規
11	就学・入学等に関する事項、及び法規
12	学級編制等に関する事項、及び法規
13	保健・安全・給食等に関する事項、及び法規
14	学校運営等に関する事項、及び法規
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度（取り組み）30%、毎回の小まとめ・小テストなど30%、筆答試験等

40%などにより総合的に評価するものとし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】 『必携 教職六法』を使って、基本的な法規などに当たるとともに、主な法規ページにインデックスをつけるなどして、引きやすくなるような工夫をしておく。
- 【事後学修】 使用したノートや参考資料などを見直すことや、授業中に取り扱い学修した法規等を「教職六法」で再度読み直すことなどに取り組む。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 『必携 教職六法』 杉原 誠四郎 監修 共同出版
- 【推薦書】 『図解・表解 教育法規』坂田 仰・河内 祥子・黒川 雅子 共著 教育開発研究所
- 【参考図書】 『教育法規便覧』 窪田 眞二・小川 友次 著 学陽書房

科目名	教育課程論		
担当教員名	狩野 浩二、津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修します。

小学校教員を目指すみなさんが2年生後期に受講し、これから勉強していく各教科（国語・算数など）、領域（道徳・特別活動など）等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることとなります。1年生で学習する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目です。このあとは、この科目の学習を生かして、各科目ごとの「小学校教科教育科目」「教育実習」を学んでいくこととなります。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいです。

#### 内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

1. これからの時代における教育課程
2. 教育の目的と方法
3. 教育方法の基礎理論
4. 学習理論の展開
5. 問題解決学習の方法
6. 学習形態と学習指導
7. 教育課程の編成
8. 学習指導要領と教育課程
9. 学習指導要領の変遷
10. 生活科と理科における内容構成
11. 現行学習指導要領の特徴
12. 生活科と社会科における内容構成
13. 授業における教師の課題 ゆさぶり
14. 授業における教師の課題 誤答
15. まとめ

#### 評価

個別学習・組織学習票（20点）と課題研究（80点）を総合して評価します。

#### 授業外学習

【事前予習】テキストの該当章を予め読み、概要をまとめ、疑問点を整理し、講義に持参します。

【事後学修】班発表の内容や班討論の内容を整理し、予習と引き比べながら振り返りレポートを作成します。次回の講義の

際、持参します。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】松田稔樹,星野敦子,狩野浩二,津吹卓『自ら学び考える教職教養 教育課程・制度・法規』学文社、その他配付資料を使います。

【推薦書】斎藤喜博『授業の展開（新装判）』 国土社

横須賀薫『授業の深さをはかるもの』 教育出版

箱石泰和編『授業 = 子どもとともに探求する旅』 教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』 教育出版 他、教室で随時紹介します。

科目名	初等国語科教育		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

小学校教諭一種、幼稚園教諭一種免許状を取得するための必須科目である。

#### 科目の概要

小学校学習指導要領から小学校「国語科」について教科の特性や指導すべき内容、方法などを概観する。また、指導案の書き方や実際の授業場面における留意事項など擬態的な例をあげながら学ぶ。

#### 学修目標（＝到達目標）

小学校での国語科の位置づけを知り、実践力を身につける。

内容	
1	ガイダンス（ことばの学びとは）
2	小学校学習指導要領における国語科の目標、指導事項
3	国語科教育の変遷と現在
4	話すこと・聞くこと
5	「伝え合う」力を育てる
6	読むこと
7	読むこと
8	読むこと ?
9	書くこと
10	書くこと
11	言語活動
12	伝統的な言語文化
13	国語教室の実際
14	国語教室の実際
15	まとめ

#### 評価

ミニレポート（6割）、最終課題（4割）、模擬授業などの参加状況を加点することとし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】指導案の作成など課題を出すことがある。

【事後学修】課題により再提出をすることがある。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領（総則編）、小学校学習指導要領解説（国語編） 東洋館出版社  
その他、教室内で指示する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	初等算数科教育		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

「算数」の上に立ち、小学校低学年の算数科目標、内容、指導方法等を理解することにねらいを置く。小学校高学年は「教材研究法」や「授業研究法」で扱い、発展していく。

算数科 ( 小学校低学年 ) の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。児童の主体的な学びを促す指導法のあり方を理解し、教材の内容の分析、指導法の工夫等での優れた実践を参考に指導計画を作成し、授業のあり方を考える。

実際に指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行う。行った模擬授業に対し指導を行うとともに学生による相互評価を行う。

#### 内容

1	ガイダンス ( 第 1 学年の指導のポイント )
2	算数科の指導内容と指導上の留意点 ( 第 1 学年の指導計画と指導案 )
3	年間計画と学習指導案の書き方 ( 第 2 学年の指導計画と指導案 )
4	図形の模擬授業とその評価 ( 第 1 学年「かたちあそび」 )
5	数量関係の模擬授業とその評価 ( 第 2 学年の指導のポイント )
6	数と計算の模擬授業とその評価 ( 第 2 学年「100より大きい数」 )
7	量と測定の模擬授業とその評価 ( 第 2 学年「長さをはかる」 )
8	教材研究と学習指導案の作成 ( 第 2 学年「かけざん」 )
9	教育機器を利用した授業とその評価 ( 第 3 学年の指導のポイント )
10	数と計算の模擬授業とその評価 ( 第 3 学年「わりざん」 )
11	量と測定の模擬授業とその評価 ( 「重さ」 )
12	教育機器を利用した授業とその評価 ( 「時刻と時間」 )
13	小学校低学年の算数科指導における留意点
14	小学校高学年の算数科指導における留意点
15	振り返りとまとめ

#### 評価

指導計画 学習指導案 模擬授業 ( 100% ) で評価。60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】指定単元の指導計画を作り一時間分の学習指導案を作る

【事後学修】学習指導要領解説算数の関連箇所を読み理解を深める

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】 ( 1 ) 小学校学習指導要領解説算数編 文科省著 ( 東洋館出版社 )



【推薦書】(1) 学力向上フロンティアスクールの実践9「算数科コース別指導による確かな学び、1 - 3年実践編」明治図書

(2) 学力向上フロンティアスクールの実践10「算数科コース別指導による確かな学び、4 - 6年実践編」明治図書

(3) 学力向上フロンティアスクールの実践8「算数科コース別指導による確かな学び、理論編」 明治図書

科目名	初等理科教育		
担当教員名	津吹 卓、井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

必修科目であり、2年の理科の発展である。

#### 科目の概要

理科を教えるとはどういうことなのかを、「実験の模擬授業」を通して体験を通して学ぶ。小学校の理科の実験を班で選び、授業案・ワークシート作成、予備実験を行ない授業の組み立てを考える。終了した後、他の学生への模擬授業、ワークシートに書かれた理科および授業に対するコメントを基にレポートを作成し、模擬授業についてのディスカッションをする。

#### 学修目標（=到達目標）

一連の活動を通して体験的に学び考え、授業とは何かに気づき自分の授業のレベルアップを図る。理科の授業、とくに実験では予想外のことが起きるのが普通である。その状態を体験しながら、理科とは、そして子どもに教えるとはどういうことなのかに気づき、今まで思っていたことから脱皮し、自分の意識改革を行なう。

#### 内容

全部の班がそれぞれ異なる実験で教員担当になり、他の学生を対象にして模擬授業を行なう。授業時間以前の授業の準備と、授業終了の後のまとめ・考察をベースに成り立つ授業である。

1	講義の主旨を説明し、班で行なう実験テーマを話し合う
2	話し合いによる班で担当する実験の調整、決定；理科の実験・観察を1つ
3	講義：理科と教員・教育について
4	実験の模擬授業
5	実験の模擬授業
6	実験の模擬授業
7	実験の模擬授業
8	実験の模擬授業
9	実験の模擬授業
10	実験の模擬授業
11	実験の模擬授業
12	実験の模擬授業
13	実験の模擬授業
14	実験の模擬授業

## 評価

実験毎のワークシート50%，担当した模擬授業のレポート20%，筆記試験30%とし，総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】授業案作成・予備実験・ワークシート作成から授業を構成する。

【事後学修】ワークシート記入・レポート作成・お互いの授業から授業の意識を深める。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】特になし

【参考図書】文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編，理科の教科書および指導書

科目名	初等理科教育		
担当教員名	津吹 卓、井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

必修科目であり，2年の理科の発展である。

#### 科目の概要

理科を教えるとはどういうことなのかを，「実験の模擬授業」を通して体験を通して学ぶ。小学校の理科の実験を班で選び，授業案・ワークシート作成，予備実験を行い授業の組み立てを考える。終了した後，他の学生への模擬授業，ワークシートに書かれた理科および授業に対するコメントを基にレポートを作成し，模擬授業についてのディスカッションをする。

#### 学修目標（=到達目標）

一連の活動を通して体験的に学び考え，授業とは何かに気づき自分の授業のレベルアップを図る。理科の授業，とくに実験では予想外のことが起きるのが普通である。その状態を体験しながら，理科とは，そして子どもに教えるとはどういうことなのかに気づき，今まで思っていたことから脱皮し，自分の意識改革を行なう。

#### 内容

全部の班がそれぞれ異なる実験で教員担当になり，他の学生を対象にして模擬授業を行なう。授業時間以前の授業の準備と，授業終了の後のまとめ・考察をベースに成り立つ授業である。

1	講義の主旨を説明し，班で行なう実験テーマを話し合う
2	話し合いによる班で担当する実験の調整，決定；理科の実験・観察を1つ
3	講義：理科と教員・教育について
4	実験の模擬授業
5	実験の模擬授業
6	実験の模擬授業
7	実験の模擬授業
8	実験の模擬授業
9	実験の模擬授業
10	実験の模擬授業
11	実験の模擬授業
12	実験の模擬授業
13	実験の模擬授業
14	実験の模擬授業

## 評価

実験毎のワークシート50%，担当した模擬授業のレポート20%，筆記試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】授業案作成・予備実験・ワークシート作成を基に授業を構成する。

【事後学修】ワークシート記入・レポート作成・お互いの授業を基に授業の意識を深める。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】特になし

【参考図書】文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編，理科の教科書および指導書

科目名	初等体育科教育		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

小学校教諭の免許を取得するために必要となる必修科目で、体育科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。1年次履修の「人間と運動」、2年後期に設定されている「体育」とも関連性が深い。

##### 科目の概要

小学校学習指導要解を基盤にして、体育が取り扱う学習内容の理解と実際の授業づくりの要点および授業運営に関する指導技術を学ぶことを中心とする。さらに、学習指導案（略案）作成の基本を学修させる。実際の授業では、題材とする運動を身体感覚で理解することを重視するため、実技を交えて活動を展開したり、受講生が指導役を担う模擬授業を実施する。

##### 学修目標

小学校における体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について、講義や演習を通して理解・習得することをねらいとする。

#### 内容

1	オリエンテーション：班づくり、よい体育授業を映像から学ぶ（その1）
2	体育科の授業づくり（小学校体育科の目標・内容・その取扱いについて）
3	体育科の授業づくり（授業の流れと授業運営委、教材づくりの基本を学ぶ）
4	保健内容の解説とポスター発表の準備活動、よい体育授業を映像から学ぶ（その2）
5	保健内容ポスター発表（その1）
6	保健内容ポスター発表（その2）
7	運動領域別の指導法：器械運動、体づくり運動
8	運動領域別の指導法：ボール運動（プレルボール）、なわとび運動
9	運動領域別の指導法：陸上運動、鉄棒運動
10	保健内容のポスター発表（その3）、模擬授業の進め方と解説について
11	指導案作成のまとめ、授業観察の方法の理解（授業評価を含む）
12	模擬授業
13	模擬授業
14	模擬授業
15	まとめ

#### 評価

発表活動30点、レポート30点、試験30点、通常の授業への取り組み（意欲、関心）10点による評価を行い、60

点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備と発表資料作成。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）

小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年

」 光文書院 「新版 小学保健 見つけよう健康 5・6年」 光文書院

【推薦書】 高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

科目名	初等体育科教育		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

小学校教諭の免許を取得するために必要となる必修科目で、体育科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。1年次履修の「人間と運動」、2年後期に設定されている「体育」とも関連性が深い。

##### 科目の概要

小学校学習指導要解を基盤にして、体育が取り扱う学習内容の理解と実際の授業づくりの要点および授業運営に関する指導技術を学ぶことを中心とする。さらに、学習指導案（略案）作成の基本を学修させる。実際の授業では、題材とする運動を身体感覚で理解することを重視するため、実技を交えて活動を展開したり、受講生が指導役を担う模擬授業を実施する。

##### 学修目標

小学校における体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について、講義や演習を通して理解・習得することをねらいとする。

#### 内容

1	オリエンテーション：班づくり、よい体育授業を映像から学ぶ（その1）
2	体育科の授業づくり（小学校体育科の目標・内容・その取扱いについて）
3	体育科の授業づくり（授業の流れと授業運営委、教材づくりの基本を学ぶ）
4	保健内容の解説とポスター発表の準備活動、よい体育授業を映像から学ぶ（その2）
5	保健内容ポスター発表（その1）
6	保健内容ポスター発表（その2）
7	運動領域別の指導法：器械運動、体づくり運動
8	運動領域別の指導法：ボール運動（プレルボール）、なわとび運動
9	運動領域別の指導法：陸上運動、鉄棒運動
10	保健内容のポスター発表（その3）、模擬授業の進め方と解説について
11	指導案作成のまとめ、授業観察の方法の理解（授業評価を含む）
12	模擬授業
13	模擬授業
14	模擬授業
15	まとめ

#### 評価

発表活動30点、レポート30点、試験30点、通常の授業への取り組み（意欲、関心）10点による評価を行い、60



点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備と発表資料作成。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）

小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年

」 光文書院 「新版 小学保健 見つけよう健康 5・6年」 光文書院

【推薦書】 高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

科目名	初等音楽科教育		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童期における音楽教育の必要性・大切さを理解した上で、初等教育者に必要な音楽科の教育内容・教材・指導法などについて学ぶことを目的とする。

##### 科目の概要

小学校学習指導要解を基盤として、特に音楽の歴史・理論・表現を中心に音楽担当教育者として必要な基礎知識の修得と、具体的な指導の場面で実践的な力を身につける。

##### 学修目標

それらの知識を生かして、小学校における音楽科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について講義や演習を通して理解・学習することをねらいとし、教育の指導力をたかめることを目指す。

内容	
1	音楽教育とは？
2	小学校学習指導要領 音楽について
3	音楽の歴史
4	1年生の音楽 歌唱指導 音楽理論 ( 譜表・派生音について )
5	1年生の音楽 楽器・鑑賞指導 音楽理論 ( 和音について )
6	2年生の音楽 歌唱指導 音楽理論 ( 音程について )
7	2年生の音楽 楽器・鑑賞指導 音楽理論 ( 調について )
8	3年生の音楽 歌唱指導 音楽理論 ( 発想記号について )
9	3年生の音楽 楽器 ( リコーダー )
10	4年生・5年生の音楽 歌唱指導
11	6年生の音楽 歌唱指導
12	中学年の合奏指導
13	高学年の合奏指導
14	中・高学年の鑑賞指導
15	まとめ

#### 評価

毎回の課題 ( 40点 )、試験 ( 50点 )、通常の授業態度 ( 10点 ) により評価を行い、60点以上を合格とする。  
合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の購読。小学校教科書の指定箇所のプレゼン活動の準備。

【事後学修】授業ノートおよび配布資料の整理。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト] 小学校「音楽」の1年生～6年生の教科書 教育芸術出版

[参考図書] 「音楽科指導書 音楽編」（文部科学省） 「初等科音楽教育法」（音楽の友社）

科目名	初等図画工作科教育		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

図画工作科の意義と役割について理解を深め、図画工作科教育に関する基礎的知識及び実践的スキルを身につけることを目標とする。図画工作科の教科としての性格、及び学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、教科の指導に必要な基礎的なスキルを養う。

#### 内容

なお、天候状況などによって順番を変更しておこなうこともある。

1	オリエンテーション
2	美術教育の目的と性格、子どもの発達と造形表現
3	図画工作科の歴史的な変遷、図画工作科の目標及び内容
4	図画工作科の授業（1）造形遊び
5	図画工作科の授業（2）絵や立体、工作に表す活動
6	図画工作科の授業（3）絵や立体、工作に表す活動
7	図画工作科の授業（4）木工作演習1：のこぎり・糸のこ
8	図画工作科の授業（5）木工作演習2：のこぎり・糸のこ
9	図画工作科の授業（6）木工作演習3：のこぎり・糸のこ
10	図画工作科の授業（7）木版画
11	図画工作科の授業（8）木版画
12	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について1
13	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について2
14	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について3
15	まとめ

#### 評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。

また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること（適宜・指示します）。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕

・文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

〔推薦書〕

・福田隆真・茂木一司・福本謹一『改訂 美術科教育の基礎知識』建帛社

・大橋功『美術教育概論』日本文教出版

科目名	初等図画工作科教育		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

図画工作科の意義と役割について理解を深め、図画工作科教育に関する基礎的知識及び実践的スキルを身につけることを目標とする。図画工作科の教科としての性格、及び学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、教科の指導に必要な基礎的なスキルを養う。

#### 内容

なお、天候状況などによって順番を変更しておこなうこともある。

1	オリエンテーション
2	美術教育の目的と性格、子どもの発達と造形表現
3	図画工作科の歴史的な変遷、図画工作科の目標及び内容
4	図画工作科の授業（1）造形遊び
5	図画工作科の授業（2）絵や立体、工作に表す活動
6	図画工作科の授業（3）絵や立体、工作に表す活動
7	図画工作科の授業（4）木工作演習1：のこぎり・糸のこ
8	図画工作科の授業（5）木工作演習2：のこぎり・糸のこ
9	図画工作科の授業（6）木工作演習3：のこぎり・糸のこ
10	図画工作科の授業（7）木版画
11	図画工作科の授業（8）木版画
12	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について1
13	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について2
14	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について3
15	まとめ

#### 評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。

また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること（適宜・指示します）。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕

・文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

〔推薦書〕

・福田隆真・茂木一司・福本謹一『改訂 美術科教育の基礎知識』建帛社

・大橋功『美術教育概論』日本文教出版

科目名	初等社会科教育		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

この科目は、小学校教諭免許取得のための教科指導法の1つで、選択必修に位置づけられている。

教科としてどのような目標を持ち、社会科の各学年の内容をどのような順にどのような指導方法によって教科指導を進めるのか、その指導法について学修する科目である。

科目の概要

・小学校社会科の教材をを取り上げ、学生自らが探究し、それらの内容をどのようなねらい持ち、どのように児童に学習させていくか、教材を作成し、教材の在り方・資料の取り扱い等について検討し深める。

学修目標

・社会科の目標、各学年の目標・内容・取り扱い等についての理解を深め、授業実践に取り組める実践力を養う。

内容

1	ガイダンス
2	小学校3学年4学年5学年6学年の社会科の目標・内容・年間指導計画
3	小学校3学年4学年の社会科の内容 私たちのまち・くらしと人々の仕事・安全なくらしを守る
4	小学校3学年4学年の社会科の内容 住みよいくらしを支える・郷土の人々の願い・私達の埼玉
5	小学校5学年の社会科の内容 私たちの生活と食料生産 私たちの生活と工業生産
6	小学校5学年の社会科の内容 私たちの生活と情報 私たちの国土と環境
7	小学校6学年の社会科の内容 日本の歴史
8	小学校6学年の社会科の内容 わたしたちの生活と政治 世界の中の日本
9	小学校社会科の小単元の学習指導案の立て方
10	小学校社会科の1時間の授業のあり方 資料の作り方・活用の仕方 学習評価の在り方
11	小学校社会科の小単元の1時間の指導案づくり・活用する資料づくり(1)
12	小学校社会科の小単元の1時間の指導案づくり・活用する資料づくり(2)
13	社会科の模擬授業の実際(1)
14	社会科の模擬授業の実際(2)
15	社会科の模擬授業の実際(3) ・まとめ

評価

課題レポート・指導計画・指導案などの提出物60点 模擬授業等への取り組み40点、等を総合的に評価する。



## 授業外学習

【事前予習】各時間に学修する、社会科の内容について、事前に調べ確認しておく。毎時 1 時間

【事後学修】学習したことを毎時間まとめる。毎時後 3 0 分

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 参考図書

- ・ 小学校学習指導要領 平成 2 0 年 3 月 文部科学省 東京書籍
- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編）平成 2 0 年 8 月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 児童用教科書
- ・ 教科書の教師用研究物

科目名	初等生活科教育		
担当教員名	清水 一豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

小学校1、2年の教科「生活科」について、学習指導要領に基づいて教科の目標や特性について理解し、教材研究や体験などを通して、生活科の趣旨をふまえた授業を構想、実践できるよう内容を構成した。

#### 科目の概要

生活科の特性を様々な領域から理解を深めていく。実際に校外での学習活動も取り入れ、子どもの目の高さに映る視野を意識しながら、授業作りや授業場面での教師の役割などについて考えていく。幼保・小の学習を接続するアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムも取り上げる

#### 学修目標（=到達目標）

・学習指導要領の趣旨をふまえた指導計画・学習指導案を作成することができる。・気づきや思考・表現など低学年児童の認識過程を理解し、支援・評価計画を作成することができる。・幼保・小の接続を図るスタートカリキュラムを作成することができる。

内容	
1	オリエンテーション 内容教科と生活科との相違 生活科の特性
2	教科目標 学年目標 内容 内容構成の具体的な視点 内容の構成要素と階層性
3	生活科の内容
4	体験や具体的な活動の価値と課題
5	単元分析 内容・学習過程・学習活動・評価 教科書を例に
6	単元分析 内容・学習過程・学習活動・評価 教科書を例に
7	年間指導計画の分析と作成
8	授業づくりの要諦 体験 気づき 思考・表現 伝え合い
9	校外学習の実際 「秋となかよし」 雑木林探検
10	指導計画・指導案づくりのための教材研究
11	指導計画・指導案づくり
12	自己の成長への気づき 自尊感情をはぐくむ生活科学習
13	学びと育ちをつなぐ幼保・小の連携・交流の進め方と実際
14	アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実際
15	カリキュラム・マネジメント まとめ

## 評価

毎回の授業時レポ(30%) 課題レポート・課題作品(50%) 授業への参加態度(20%)とし、総合評60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】各回の授業で扱う項目についてテキストや資料を読み理解できたこと、理解できないことを明確にして授業に出席すること。

【事後学修】授業に指示した課題に取り組んだり、授業で理解できないことについて図書館等でさらに調べ理解することに努力する。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】学習指導要領解説 生活科編 文部科学省 日本文教出版  
小学校生活科教科書 「せいかつ」(上・下) 光村図書出版

【推薦書】

【参考図書】

科目名	初等家庭科教育		
担当教員名	勝田 映子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

小学校家庭科の学習内容をどのように指導すれば効果的かをこれまでの具体的な実践を交えて説明する。また、教科書の内容を体験する機会もできるだけ盛り込んで指導し、指導の手がかりが持てるよう配慮する。また、家庭科の年間指導計画や学習指導案作りを行い、模擬授業の経験も取り入れる。

#### 内容

- 1 本授業のガイダンス  
授業計画、準備するもの、評価など 生活アンケート
- 2 家庭科の学びについて理解する  
～ 教科書を読む - 学生による教科書の内容紹介（題材について分担して紹介し合う）  
家庭科の学びとは何か - 家庭科の目標と内容、教科の独自性、小中高の関連の理解  
学習指導要領について - 学生による内容紹介（分担して内容を紹介し合う）
- 3 指導法の研究  
家庭科における安全指導と安全管理 - 事例研究と実習 -  
学習指導計画の作成の仕方 - 解説と演習 -  
家庭科の授業づくり 1 - 授業目標と評価・指導案の作り方演習 -
- 4 指導法の実践  
～ 模擬授業
- 5 実習指導の実践  
ミシン縫いの基礎を実習し、指導上の留意点について話し合う。  
ミシンと手縫いで小物を縫い、児童の視点で作品や授業の展開を検討する。  
調理実習の指導計画を立て、指導上の留意点について話し合う。  
学習のまとめ これからの家族・家庭生活を展望した指導の在り方について話し合う。

#### 評価

毎回の課題の記録やレポートで75%程度、作品や発表で25%程度を総合的に評価する。

#### 授業外学習

- 【事前予習】教科書や学習指導要領の内容を自分の言葉で説明できるようにまとめる。模擬授業の準備をする。
- 【事後学修】講義内容について再度、教科書や学習指導要領を読み、確認する。さまざまな指導案を集めたり、小学校の研究授業や公開授業に出かける。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校家庭科教科書「新しい家庭5・6」』 東京書籍、『小学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省

【推薦書】『子どものよさを活かす家庭科学習』 勝田映子著 初等教育研究会・不昧堂出版、『小学校学習指導要領の解説と展開家庭編』 安彦忠彦監修・内野紀子編著 教育出版、『できますか？教えられるか？家庭科の基本』 流田直監修・亀井祐子・田中京子・勝田映子著 学研教育みらい、『作る手が子どもたちを輝かす』 お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会 地域教材社

【参考図書】授業内で紹介する。

科目名	初等家庭科教育		
担当教員名	勝田 映子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

小学校家庭科の学習内容をどのように指導すれば効果的かをこれまでの具体的な実践を交えて説明する。また、教科書の内容を体験する機会もできるだけ盛り込んで指導し、指導の手がかりが持てるよう配慮する。また、家庭科の年間指導計画や学習指導案作りを行い、模擬授業の経験も取り入れる。

#### 内容

- 1 本授業のガイダンス  
授業計画、準備するもの、評価など 生活アンケート
- 2 家庭科の学びについて理解する  
～ 教科書を読む - 学生による教科書の内容紹介 ( 題材について分担して紹介し合う )  
家庭科の学びとは何か - 家庭科の目標と内容、教科の独自性、小中高の関連の理解  
学習指導要領について - 学生による内容紹介 ( 分担して内容を紹介し合う )
- 3 指導法の研究  
家庭科における安全指導と安全管理 - 事例研究と実習 -  
学習指導計画の作成の仕方 - 解説と演習 -  
家庭科の授業づくり 1 - 授業目標と評価・指導案の作り方演習 -
- 4 指導法の実践  
～ 模擬授業
- 5 実習指導の実践  
ミシン縫いの基礎を実習し、指導上の留意点について話し合う。  
ミシンと手縫いで小物を縫い、児童の視点で作品や授業の展開を検討する。  
調理実習の指導計画を立て、指導上の留意点について話し合う。  
学習のまとめ これからの家族・家庭生活を展望した指導の在り方について話し合う。

#### 評価

毎回の課題の記録やレポートで75%程度、作品や発表で25%程度を総合的に評価する。

#### 授業外学習

- 【事前予習】教科書や学習指導要領の内容を自分の言葉で説明できるようにまとめる。模擬授業の準備をする。
- 【事後学修】講義内容について再度、教科書や学習指導要領を読み、確認する。さまざまな指導案を集めたり、小学校の研究授業や公開授業に出かける。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】『小学校家庭科教科書「新しい家庭5・6」』 東京書籍、『小学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省

【推薦書】『子どものよさを活かす家庭科学習』 勝田映子著 初等教育研究会・不昧堂出版、『小学校学習指導要領の解説と展開家庭編』 安彦忠彦監修・内野紀子編著 教育出版、『できますか？教えられるか？家庭科の基本』 流田直監修・亀井祐子・田中京子・勝田映子著 学研教育みらい、『作る手が子どもたちを輝かす』 お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会 地域教材社

【参考図書】授業内で紹介する。

科目名	教材研究		
担当教員名	清水 玲子、廣坂 多美子、増田 吉史、津吹 卓 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

小学校教諭一種取得のための選択科目である。通年で小学校の主要教科をオムニバスで学ぶ。

#### 科目の概要

小学校では教科により、指導の狙いや内容異なり、指導方法も多様である。国語、算数、社会、理科、音楽、体育それぞれの教科について学習指導要領に示された指導事項について学ぶとともに、実践的な指導のあり方などについても学ぶ。

#### 学修目標（＝到達目標）

それぞれの教科について指導目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究の方法を知る。指導案を書いてみる。

#### 内容

小学校で学習するそれぞれの教科での単元や教材について、領域、学年ごとに教材を選び研究する。学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、現場での教材研究の方法について習熟する。

必要に応じて指導案を書いたり、資料を作成するなど実践的な学びを行う。3年での授業研究の基礎となる学修である。

前期 第1週 ～ 5週 算数（増田吉史）

第6週 ～ 10週 体育（山本 悟）

第11週 ～ 15週 国語（松木正子）

後期 第1週 ～ 5週 音楽（清水玲子）

第6週 ～ 10週 理科（津吹 卓）

第11週 ～ 15週 社会（廣坂多美子）

#### 評価

ミニレポート（4割）、授業への取り組み（3割）、最終レポート（3割）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】模擬授業の準備などを行う。

【事後学修】感想をまとめたり、授業の続きを考えたりする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）



【教科書】小学校学習指導要領総則編、小学校学習指導要領解説（各教科）

その他、教室で指示する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	授業研究		
担当教員名	清水 玲子、増田 吉史、日出間 均		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

「算数」「初等算数指導法」「教材研究法」の上に立ち、算数科の単元指導計画立案や、学習の主体性を尊重する指導のあり方について学ぶ。

小学校6年間を通じた実践と理論の科目である。

小学校の算数科目標、内容、指導方法等を理解することにねらいを置き、児童の実態と教材の内容の分析、指導法の工夫等での優れた実践を元に、指導計画立案や学習指導案作成を通し要点をとらえる。

#### 内容

##### ガイダンス

##### 算数科授業のポイント

##### 算数科の指導内容と指導上の留意点

##### 基礎・基本を確実に身につけさせる指導のあり方

##### 個に応じた指導のあり方

##### 学力のとらえ方と評価の関係

##### 一人一人の学力を向上させる指導のあり方

##### 校内の指導体制と保護者の意識

##### 問題解決指導のあり方

##### 補充的な学習の指導と教材開発のあり方

##### 発展的な学習の指導と教材開発のあり方

##### 発展的な学習の指導の実際 ( 指導計画、指導案、模擬授業 )

##### T Tのための指導計画の実際

##### コース選択とコースガイダンスの実際

##### 評価のあり方と工夫の実際

##### 指導計画や学習指導案の作成

##### 模擬授業

##### 数と計算の模擬授業とその評価

##### 量と測定の模擬授業とその評価

##### 図形の模擬授業とその評価

##### 数量関係の模擬授業とその評価

##### 小学校6年間を通じた算数科指導における留意点

#### 評価

指導計画 学習指導案 模擬授業 ( 100% )、60%以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】指定学年・単元の指導計画を作り、1時間分の指導案を作成する

【事後学修】小学校学習指導要領解説算数の関連箇所を読み理解を深める

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省 東洋館出版

小学校学習指導要領解説総則編 文科省 東洋館出版

【推薦書】学力向上フロンティアスクールの実践 9 「算数科コース別指導による確かな学び、1

- 3年実践編」 明治図書、学力向上フロンティアスクールの実践 10 「算数科コース別指導による確かな学び、4 - 6年実践編」 明治図書、学力向上フロンティアスクールの実践 11 「算数科コース別指導による確かな学び、理論編」 明治図書

科目名	授業研究		
担当教員名	清水 玲子、富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

2年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許状取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは「国語」の授業について授業を進めるにあたっての実際を解説する。

#### 科目の概要

少人数で学習する体制づくりのために 国語、算数、社会・理科、音楽・図工・体育の4コースに分かれて学修を進める。受講生はいずれかのコースを選択して履修することになる。国語では、実際の授業を成立させるために、教材研究、指導案作成や指導技術などを模擬授業、映像等による授業解説などを加えながら総合的に学修することを目指している。

#### 学修目標

ことばの学びである「国語科」の教科特性を知り、学習指導要領に示された指導目標の達成のために教材研究の方法や指導案の立案・作成の仕方を学び実践できるようにする。また、具体的な授業場面を想定しながら模擬授業を行うことができるようになる。

#### 内容

小学校の授業づくりについて、学習内容の中核となる教材研究にとどまることなく、授業の進め方や展開の仕方、子どもへの接し方（和術、表情）、指導案や単元計画作成の理解などをより実践的に学ぶことを意図した科目である。また、このコースでは、国語科を「ことばの学び」としてとらえ、子どもたちのことばを育てることを意図し、指導の進め方を学ぶだけでなく、思考し、想像することばの働きを大切にす。さらに「伝え合う」ためのコミュニケーション能力を育てるにはどのようなことに配慮するかということも大事にしたい。

年間30週の講義になる。学年や領域を考慮し、前期後期とバランスよく扱えるとうい。

前期	第1週	オリエンテーション
	第2～7週	読むことの指導（文学的な文章）
	第8～10週	読むことの指導（説明的な文章）
	第11～13週	伝統的な言語文化の指導
	第14～15週	書くことの指導
後期	第1週	ことばの学び
	第2、3週	入門期の指導
	第4～7週	読むことの指導（文学的な文章）
	第8～10週	読むことの指導（説明的な文章）

第11～13週 話すこと・聞くことの指導

第14～15週 書くことの指導

## 評価

ミニレポート（3割）、授業への取り組み（模擬授業や発表活動など）（4割）、最終課題（3割）をもとに総合的に評価を行う。

## 授業外学習

【事前予習】模擬授業の準備、指導案や資料の作成など

【事後学修】授業後の反省を書くなど、実践の振り返りをする

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 教科書

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 国語編」 東洋館出版 （平成20年版）

科目名	授業研究		
担当教員名	清水 玲子、廣坂 多美子、津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

2年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許状取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは社会・理科コースの授業の進め方について解説する。

#### 科目の概要

社会・理科コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説などを加えながら総合的に学修することをめざしている。

#### 学修目標

問題解決学習を中心とする社会・理科の2教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立てを具体的に学修することをねらいとする。特に、指導計画や学習指導案の立案・作成に関する知識の理解、模擬授業を実践できる指導技術の習得を目標とする。

### 内容

小学校の授業づくりについて、学習内容の中核となる教材研究を深めるだけでなく、授業の進め方や展開法、子どもとの接し方（話術、表情）、指導案や単元計画作成の理解などをより実践的に学ぶことを意図した科目である。

また、このコースでは、問題解決学習の手法を中心に進める。実際の授業は2名の教員がオムニバス形式で担当し、前期15週・後期15週を以下のような授業計画で進める予定である。そして、社会・理科における各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説、実技指導のポイントやコツの練習などを通して総合的に学修する。

前期 第1週：オリエンテーション

第2～8週：社会科に関する授業研究

第9～14週：理科に関する授業研究

第15週：まとめ

後期 第1週：オリエンテーション

第2～7週：社会科に関する授業研究

第8～14週：理科に関する授業研究

第15週：まとめ

### 評価

2教科それぞれで実施される「課題作成・発表活動・レポート」などを各40点で評価を行う。それに授業への取り組み（関心・意欲）の各10点を加えて総合的に評価を実施する。60点以上を合格とするが、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】授業前に教材について研究を深めておく。毎時30分

【事後学修】模擬授業の反省をし、改善点をまとめる。毎事後30分

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 【教科書】

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 社会編」 東洋館出版社（平成20年度版）

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 理科編」 大日本図書（平成20年度版）

科目名	授業研究		
担当教員名	清水 玲子、山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

2年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許状取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは、音楽・図工・体育コースの授業の進め方について解説する。

#### 科目の概要

少人数で学習する体制づくりのために、国語、算数、社会・理科、音楽・図工・体育の4コースに分かれて授業を進める。受講生はいずれかのコースを選択して履修することになる。音楽・図工・体育コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業や映像等による授業解説を加えながら総合的に学修することをめざしている。

#### 学修目標

表現活動を共通項とする音楽・図工・体育の3教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立てを具体的に学修することをねらいとする。特に、指導計画や学習指導案の立案・作成に関する知識の理解、模擬授業を実践できる指導技術の習得を目標とする。

#### 内容

小学校の授業づくりについて、学習内容の中核となる教材研究を深めるだけでなく、授業の進め方や展開法、子どもとの接し方（話術、表情）、指導案や単元計画作成の理解などをより実践的に学ぶことを意図した科目である。また、このコースでは実技科目特有の技能や技術に関する指導ポイントやコツを共有化することを通して、受講生自身の技能レベルの向上もねらいとする。

実際の授業は3名の教員がオムニバス形式で担当し、前期15週（火1限）・後期15週（水1限）を以下のような授業計画で進める予定である。そして、音楽・図工・体育科における各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業や映像等をもとに理解するとともに、実技指導のポイントやコツについても実践的な練習を通して総合的に学修する。

前期 第1～10週 : オリエンテーション、図工科に関する授業研究 : 宮野  
 第11～15週 : 音楽科に関する授業研究、まとめ : 清水

後期 第1～10週 : オリエンテーション、体育科に関する授業研究 : 山本  
 第11～15週 : 音楽科に関する授業研究、まとめ : 清水



## 評価

3教科それぞれで実施される「課題作成・発表活動・レポート」などを各30点で評価を行う。それに授業への取り組み（関心・意欲）の10点を加えて総合的に評価を実施する。60点以上を合格とするが、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備と発表資料作成。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 【教科書】

文部科学省 「小学校学習指導要領」東京書籍（平成20年度版）

### 【参考図書】

授業中に適宜、紹介する。

科目名	道徳教育		
担当教員名	高橋 京子、綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

この科目は小学校教諭一種免許状の取得に必要な「教職に関する科目」であり、「教育課程及び指導法に関する科目」の一つです。また、この科目の履修は、次年度に行う小学校教育実習の履修のための条件の一つとなっています。

授業では、学校をとりまく現代社会の今日的位相を射程に入れながら、小学校における道徳教育の役割、意義、内容と指導の実際を学びます。特に、道徳的行為を成り立たせる心情、判断力、実践意欲・態度について理解し、実際に模擬授業を行うなかで、「道徳の時間」における指導の仕方を学びます。

学修目標は、次の三つです。 小学校における道徳教育の役割を理解する。 「道徳の時間」について理解し、構想をたてる。 発表を通じて、相互に検討を行い、道徳教育の具体的な方法を身につける。

#### 内容

1	道徳、道徳教育について
2	学習指導要領について 道徳教育の目標、内容、位置づけ、役割
3	学習指導要領について 道徳教育の充実、配慮事項
4	道徳授業の実際
5	道徳教育の実際
6	「道徳の時間」の指導過程、指導の工夫
7	資料の検討と分析、選択
8	資料の検討と分析、選択
9	指導案の作成手順、作成
10	指導案の吟味、検討
11	模擬授業
12	模擬授業
13	模擬授業
14	模擬授業
15	まとめ

#### 評価

試験40点、課題提出40点、授業への参加度20点とし、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

#### 授業外学習

【事前予習】『小学校学習指導要領解説 道徳編』を熟読しておくこと。特に、模擬授業の前には、授業以外に、グループ単位で指導案を完成させるほか、事前の練習と準備（90分ほど）が必要である。

【事後学修】模擬授業後には、受講者間での討議をふまえ、レポートをまとめ提出する。他、文部科学省のホームページを

適宜、参照し、道徳教育についての施策の動向を把握すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』

【推薦書】徳永正直・宮島秀光・榊原志保・堤正史・林泰成『道徳教育論 - 対話による対話への教育』ナカニシヤ出版、2009年

【参考図書】文部科学省『小学校道徳読み物資料集』文溪堂、2011年

科目名	特別活動		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

#### 科目の概要

特別活動は、学校教育における各教科以外の学習の中心となるものである。しかし学習指導要領に示された特別活動の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。特別活動の目的や方法について正しい理解のもとに指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生が自ら小中学校で体験した特別活動に関する思い出や課題意識を相互に意見交換し、教師として児童生徒の自主的な活動を指導できるようにする。

#### 学修目標

- ・学校教育の今日的課題である「生きる力」の育成に資する特別活動の意義や役割について考察し、特別活動の歴史的変遷や領域ごとの特色について理解する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童生徒が自ら話し合い、協力して実践するための指導のあり方について考察する。
- ・学級活動の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

#### 内容

1	1. 学校教育の今日的課題と特別活動	社会動向と教育的課題
2	2. 特別活動の教育的課題	特別活動の特質、性格について
3	3. 日本における特別活動の歴史と変遷	近代日本の教科外活動、戦後における特別活動
4	4. 学級活動の意義と指導の実際	学級活動の意義と性格
5	5. 学級活動の内容・方法・評価	学級活動の指導形態と方法
6	6. 学級活動(2)の展開事例と今日的課題	学級活動の指導案
7	7. 学級活動(1)の展開事例と指導	
8	8. 児童会活動、生徒会活動	児童会・生徒会活動の特質と目標、内容及び指導上の留意点
9	9. クラブ活動、部活動の歴史的変遷と教育的意義	
10	10. 学校行事の目標・内容・指導計画等	望ましい実施と指導上の配慮事項
11	11. 総合的な学習の時間との関係	
12	12. 学級活動模擬授業の進め方について	指導案の検討、模擬授業の準備
13	13. 模擬授業の実践(1) 学生の選択した主題	
14	14. 模擬授業の実践(2) 学生の選択した主題	
15	15. 模擬授業の評価とまとめ	

#### 評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『小学校学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

科目名	教育方法		
担当教員名	狩野 浩二、津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は、教育職員免許法施行規則で定められた科目の中で、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の普通免許を取得するために、必修と定められた科目である。同施行規則で定められた科目には、「教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」となっているが、コンピュータ等の操作技法については、高等学校まであるいは大学入学後に「情報処理演習」において十分に学習しているので、操作技法については行わない予定である。

本科目では、「方法・技術」を軽視したり、メディアや情報機器を活用することが「方法・技術」であるとしたりするものではなく、教師が身に付けている方法や技術はきわめて重要であると考えている。

「方法・技術」には、子どもの状態を見抜き、事態の先を見通す洞察力なども含んだ「教師力」そのものであると考えている。その意味において、教員を目指すものには必ず理解し、学修してほしい分野である。

#### 内容

以下に取り扱う内容を示す（順不同）。

テキストの順序に沿っている。

- 1 教育の方法と技術（教育の方法・技術とは何か、子どもの学びと教師の方法・技術など）
- 2 授業が目指すものは何か（授業の方法・技術と子ども、子どもの固有性と方法・技術の創造性）
- 3 授業の構想と計画（構想と計画の基本的視点、指導案はどう書くか、指導案を支える教材研究）
- 4 指導案作成（実習課題）
- 5 教えることと支援すること（本気で教えること、学習支援と称して放置すること）
- 6 問いの創造と授業の展開（問いの発見から課題の成立へ、授業の構成と学習形態）
- 7 教材づくり・教材発掘の視点（教材づくり・教材発掘の視点、教材研究）
- 8 授業と教授メディア（教授メディアの変遷、授業はどのように変わるか）
- 9 コンピュータの利用（コンピュータと現代社会、コンピュータの教育利用の領域と教師の役割）
- 10 学習障害（LD）の理解と指導（学習障害の概念、LDの要因と理解、指導法）
- 11 特別支援教育と方法・技術（特別支援教育、Normalization, ADHD）
- 12 授業と教師（教師の力量、表現としての教師の身体、教師のことば）
- 13 教育評価の役割と方法
- 14 学力と教育評価の課題（予期しない学習の結果、教育的働きかけと評価、学力）
- 15 まとめ

#### 評価

評価は、 授業態度（授業への参加度や、授業中の課題への取り組み状況）を10%、 課題の提出状況と達成度を40%、 最終試験の達成度を50%とし、総合的に行う。全体の60%以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う場合があるので注意すること。

## 授業外学習

【事前予習】テキストの該当箇所を予め読み、概要をまとめ、疑問点を析出します。講義に持参します。

【事後学修】班発表の内容や班討論の内容を整理し、予習した個別学修内容と比較検討し、振り返りレポートを作成します

。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】松平信久・横須賀薫編『新訂教育の方法・技術』教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版，その他教室で紹介する。

科目名	保育内容総論		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

この科目は、幼稚園教育要領に示されている保育内容と学級経営を関連させて学ぶことで、保育の在り方を具体的に考察し、幼稚園教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格をもつ。

##### 科目の概要

幼稚園において、子どもたちは自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達を遂げている。本授業では、幼児期にふさわしい生活を展開するためには、どのような環境や保育内容が必要か、指導方法をどのように考えることが大切かについて、総合的に考える力を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びを振り返る中で、具体的な場面を想定しながら環境のあり方、指導の方法についてグループで考え発表の機会をもつ。

##### 学修目標（=到達目標）

- ・幼稚園教育要領における領域の意味と関係性について理解する。
- ・保育内容やねらいに即した指導計画を作成し、実践するためのスキルを獲得する

#### 内容

1	保育内容とは何か（幼稚園教育の基本）
2	保育内容・5領域の関係性
3	教育課程と指導計画の関係性
4	遊びと環境の構成
5	遊びの中の学びを豊かにする教材
6	遊びの中における幼児一人一人の学び
7	幼稚園の特色・教育方針（様々な幼稚園の現状理解）
8	保育の質を高める教材と指導の在り方
9	指導計画の作成と指導の工夫
10	学級集団とグループダイナミックス
11	グループごとの発表1（指導計画）
12	グループごとの発表2（指導の工夫）
13	幼児の経験を総合的にとらえる視点
14	保育内容を充実させる教師の専門性
15	まとめ

#### 評価

授業への取り組み20%、課題提出40%、試験40%によって総合的に評価し、60点以上を合格とする。



## 授業外学習

【事前予習】事前に提示する課題に関する資料検索、発表準備

【事後学修】学習のまとめとして提示する課題に関するレポート作成

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 プリントを配布する

【参考資料】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

【推薦図書】授業の中で、適宜紹介する

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	露木 文恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

幼稚園教諭免許状取得のための必修科目。「環境」は、幼児の発達をとらえる視点、5つの領域の中の1つである。

#### 科目の概要

子どもは環境とどのようにかかわっているのか、このかかわりが「環境」の内容として具体的な経験となり蓄積されていくためには、保育者にどのような環境構成や援助が求められているのか具体的に考える。

#### 学修目標（=到達目標）

保育における「環境」の大切さを理解し、保育者として適切な指導ができる力を身につける。

身近な環境とかがわり、深い関心をもち、子どもの生活や遊びに結びつける。

内容	
1	「環境」を学ぶ（1）
2	「環境」を学ぶ（2）
3	子どもと環境（1）
4	子どもと環境（2）
5	子どもと環境（3）
6	子どもと環境（4）
7	子どもと環境（5）
8	子どもと環境（6）
9	子どもと環境（7）
10	子どもと環境（8）
11	「環境」と保育活動
12	望ましい環境を考える（1）
13	望ましい環境を考える（2）
14	望ましい環境を考える（3）
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度20% 発表と課題のレポート40% まとめレポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】十文字学園女子大学構内、居住地、通学路の自然環境に目を向け感じたことを記録する。

課題によるグループワークの準備をする。

【事後学修】授業を振り返り、大事なこと、今後に生かせる内容をレポートにまとめる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館
保育所保育指針解説書	厚生労働省	フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	村田 光子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

この科目は幼稚園教諭一種免許や保育士資格取得のための必修科目であり、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。

#### 科目の概要

領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、乳幼児期の人とのかかわる力の発達過程をふまえた保育者の援助について、演習形式で学ぶ。

#### 学修目標（＝到達目標）

- ・乳幼児期のこどもの人間関係の育つ過程を知り、保育者や友だちとのかかわりの中で、どのような人間関係が育っていくかを理解する。
- ・領域「人間関係」の意義とねらい・内容を理解し、具体的な乳幼児の姿と結びつけて考えることができる。
- ・たくましい社会性の形成を目指して、幼稚園教諭、保育士として積極的に援助することができるようになる。

#### 内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、一人ひとりの子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学ぶ。そして、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考えを深めていく活動を行う。

1	現代社会と人とのかかわり
2	乳幼児期の人とのかかわりの発達（乳児期前半）
3	乳幼児期の人とのかかわりの発達（乳児期後半）
4	乳幼児期の人とのかかわりの発達（幼児期前半）
5	乳幼児期の人とのかかわりの発達（幼児期後半）
6	領域「人間関係」の意義、ねらい・内容
7	領域「人間関係」とその他の領域との関係
8	生活や遊びの中で育つ人とのかかわり（事例を中心に）
9	生活や遊びの中で育つ人とのかかわり（事例を中心に）
10	生活や遊びの中で育つ人とのかかわり
11	人とのかかわりを育てる保育者の役割と援助（事例を中心に）
12	人とのかかわりを育てる保育者の役割と援助
13	人とのかかわりが難しい子どもへの支援
14	人とかかわる力を育てる大人の間人間関係
15	まとめ

## 評価

学習への参加状況、レポート(30%)、期末試験(70%)とし、総合評価60点以上を合格とする。  
合格点(60点)に満たなかった場合は再試験を行います。

## 授業外学習

- 【事前予習】事前に配布されたプリントは必ず読み、自分なりの考えをもって授業に参加する。
- 【事後学修】授業後、その日の授業を振り返り、ポイントを整理しておく。特にビデオ視聴後は提出の有無に関係なく、どのように受け止めたかをまとめておく。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】 榎沢良彦・入江礼子編著『シードブック保育内容 人間関係』建帛社
- 【推薦書】
- 【参考図書】文部科学省「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館  
厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館  
文部科学省 幼稚園教育指導資料集第3集「幼児理解と評価」改訂版 ぎょうせい

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性質

幼稚園教諭免許状資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園での実習を行うための必要条件となっている。

#### 科目の概要

子どもの発達理解、保育援助、教材研究、保育者となる自分自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。発達理解に基づいて、子どもを受容し、安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かろうとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

#### 学修目標

- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・ 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・ 絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・ 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

#### 内容

1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期のことば
2	乳幼児期のことば
3	保育内容（言葉）を理解する
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式
5	遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
6	保育者の言葉と援助
7	子どものことばを豊かに（絵本）
8	絵本・物語とイメージーション
9	読み聞かせの演習
10	ことば遊び / 劇遊び
11	ことば遊び / 劇遊び
12	簡単なペープサート作成と劇遊び体験
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	まとめ

#### 評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】 幼児の言葉の発達など事前に予習する。発表のための準備行う。

【事後学修】 感想や意見を記録し報告する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】

【参考図書】 授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（音楽）		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

幼児期における音楽教育の必要性と大切さを理解した上で、保育現場での実際の音楽活動について学ぶことを目的とする。

##### 科目の概要

童謡や子どもの歌をとりあげ、普段の保育で遊ぶ簡単なリズムあそびや、発表会・運動会などの行事で発表する簡単なリズムダンスへの発展の仕方などを修得し、導入法などを学ぶ。

また同時に童謡や子どもの歌と一緒にうたいながら演奏できる伴奏法も学び、保育者自身のピアノの技術の向上もめざす。音楽をいかに楽しく表現するか、その音楽を子どもにどのように指導していくかを勉強していく。

##### 学修目標

個人個人の技量に合わせて最終的に伴奏でき、音楽あそびにおいては保育者が自分で考案し指導できるようになることを学修目標とする。

#### 内容

この講義は、毎回童謡や子どもの歌に合わせて動いたり遊んだり、また課題曲を歌いながらピアノを弾く実技を伴うものである。

##### (1)歌いながら伴奏をする。

前半の60分は、ピアノの実技を中心に講義を行う。

音楽を、季節・行事・遊び・生活・その他のジャンルに分類する。それぞれのジャンルから、よく歌われる歌、知っている歌、新曲などから、毎回課題として3~4曲ずつ選曲し、個人の技量に合わせて編曲をして弾き、また子どもの発達段階に合わせての指導法を勉強する。

リズム・フレーズ・拍子など音楽分析

各自の技術に合わせた演奏と編曲

歌いながらの指導法

行事関係の曲

生活関連の曲

あそび関連の曲

##### (2)リズム遊びや動きなどを中心として動く。

後半30分は、手遊び・リズムあそび・リズムダンスを2~3曲覚える。

普段の保育でのリズムあそびやその創作

発表会や運動会を中心としたあそび・動き

歩くリズムの捉え方

走るリズムの捉え方

スキップのリズムの捉え方



流れるリズムの捉え方  
縦乗りのリズムの捉え方

## 評価

毎回ごとの課題に対する発表(60点)と試験(30点)、通常の授業態度(10点)により評価を行い、60点を以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

## 授業外学習

- 【事前予習】課題曲3曲の楽譜を読譜し練習する。
- 【事後学修】授業内で習ったことの整理。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜、テキスト・プリント・CDを使用し紹介する。

推薦CD:

- ・しみずれいこのリズム・あそび&ダンス 大集合(キングレコード)
- ・年間とおして!毎日やくだつ!保育ベスト30あそび(キングレコード)など

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	山本 悟、岡上 直子、鳩山 多加子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

この科目は幼稚園教諭免許取得の必修科目であり、幼児の健康・安全・運動に関する指導のあり方を学ぶものである。

#### 科目の概要

健康・安全に必要な基本的な生活習慣や生活リズムを身につけさせる方法や幼児の運動遊びに関する指導法を学ぶとともに、施設・設備の整備に関する具体的なあり方を理解する。指導法を学ぶ場として模擬授業的な活動を設け、受講者全員に発表活動を体験させる。3名の教員が専門性を生かし、オムニバス形式で授業を担当する。

#### 学修目標

幼児における健康の意義とその必要性を理解し、保育者としての健康に関する指導法の知識と技能を身につけることができる。

内容		
1	オリエンテーション（本講義のねらいについて）	: 山本、岡上
2	幼児における健康的な生活について	: 山本、岡上
3	子どもの心身の発育・発達とその特性	: 山本、岡上
4	発表活動の説明と班づくり	: 山本、岡上
5	子どもの生活リズムおよび基本的な生活習慣	: 岡上、鳩山
6	幼稚園における実際活動を知る（その1）*運動遊びと健康指導の理解	: 岡上、鳩山
7	子どもの遊びと運動発達、その指導法（模擬的授業活動のプレゼン）	: 山本、鳩山、岡上
8	子どもの遊びと運動発達、その指導法（模擬的授業活動のプレゼン）	: 山本、鳩山、岡上
9	子どもの遊びと運動発達、その指導法（模擬的授業活動のプレゼン）	: 山本、鳩山、岡上
10	幼稚園における実際活動を知る（その2）*プレゼンの振り返り	: 岡上、鳩山
11	保健指導に関する模擬授業的活動（プレゼン）	: 山本、鳩山、岡上
12	保健指導に関する模擬授業的活動（プレゼン）	: 山本、鳩山、岡上
13	子どもの安全指導に関する模擬授業的活動（プレゼン）	: 山本、鳩山、岡上
14	幼稚園における実際活動を知る（その3）*プレゼンの振り返り	: 岡上、鳩山
15	子どもの救急法を学ぶ	: 山本、岡上

#### 評価

発表活動と振り返りのレポート60点、まとめのレポート20点、授業への取り組み（関心・意欲）20点による評価を行い、60点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備と発表資料作成。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館

【推薦書】 河邊貴子編 「保育内容（健康）」 ミネルヴァ書房

科目名	保育内容の指導法（造形）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」とある。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

#### 内容

- 1.オリエンテーション・自然との出会い-1
2. 自然との出会い-2
3. 自然との出会い-3
4. 自然との出会い-4
5. 自然との出会い-5
6. ものとの出会い-1
7. ものとの出会い-2
8. ものとの出会い-3
9. ものとの出会い-4
10. ひととの出会い-1
11. ひととの出会い-2
12. ひととの出会い-3
13. 社会の事象と造形-1
14. 社会の事象と造形-2
- 15.まとめ

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

#### 評価

授業を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分自身のポートフォリオを作成すること(60点)。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出(40点)とし、総合評価60点以上で合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること(適宜・指示します)。

【事後学修】授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜紹介する。

科目名	保育内容の指導法（造形）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」とある。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

#### 内容

- 1.オリエンテーション・自然との出会い-1
2. 自然との出会い-2
3. 自然との出会い-3
4. 自然との出会い-4
5. 自然との出会い-5
6. ものとの出会い-1
7. ものとの出会い-2
8. ものとの出会い-3
9. ものとの出会い-4
10. ひととの出会い-1
11. ひととの出会い-2
12. ひととの出会い-3
13. 社会の事象と造形-1
14. 社会の事象と造形-2
- 15.まとめ

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

#### 評価

授業を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分自身のポートフォリオを作成すること(60点)。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出(40点)とし、総合評価60点以上で合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること(適宜・指示します)。

【事後学修】授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜紹介する。

科目名	保育内容の指導法（表現）		
担当教員名	狩野 浩二、久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教育職員免許法に定められた「指導法」に関する科目である。幼稚園教員免許状一種取得（小学校教員免許一種取得者に限る）に必要な科目であり、身体表現，朗読，歌唱表現等を子どもたちに指導する際の内容や方法について学ぶ。

この科目では，子どもたちの身体表現，朗読表現，歌唱表現等を指導する際に必要となる教師の技術について，実際に作品を教材として実際に学ぶことになる予定である。学修に際しては，運動のできる服装，裸足になることがあること，などに留意すること。

まずは，学生自らが心をひらいて表現する経験を積むことである。その上で，子どもたちに表現活動を指導する際には，どのようなことに注意したらよいかを実技を交えて学ぶことである。

#### 内容

教室において，取り組む教材『善知鳥の浜』（横須賀薫詩、近藤幹雄曲）を紹介する。その上で，朗読表現，歌唱表現，身体表現等について，個人やグループで個別的に学修し，お互いにそれぞれの良さを学び合うことになる。

毎回の授業において，取り組む作品についての教材解釈，個人練習，集団練習の方法，作品構成の理解，発表までの道筋，発表における留意点等を，実際に学ぶことになる。

まずは，教員として必要となる表現力の養成ということの主眼とする。その上で，幼児に指導する際の勘所を作品に即して指導することになる。

受講生が40名を超える場合は，班を編制し，各班ごとに作品に取り組むことになる。

第1回 教材の配布、履修登録の確認。教材紹介。

第2回 教材の練習。『善知鳥の浜』の作品解釈と朗読、歌唱。練習第1連。

第3回 練習第2連。呼吸法、とその指揮法。

第4回 練習第3連。姿勢の保ち方。

第5回 練習第4連。身体の脱力、野口体操。

第6回 練習第5連。腹式呼吸法。

第7回 練習第6連。歌唱の指導、指揮法。

第8回 練習第7連。ピアノ伴奏と表現。

第9回 練習第8連。日本語の言葉と、表現。

第10回 練習第9連。作品のイメージを生かした表現の工夫。

第11回 練習第10連。イメージを豊かに育む指導法。

第12回 練習第11連。身体表現指導。

第13回 全体練習(朗読を中心に)

第14回 全体練習(歌唱を中心に)

第15回 まとめ(発表会)

#### 評価

毎回の取り組みの様子（3割）、振り返りの課題（7割）を提出してもらい，その内容を総合して60点以上を合格とす



る。

#### 授業外学習

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。

【事後学修】講義中の練習を踏まえて、自己の課題を意識し、歌唱や朗読の練習をします。振り返りのレポートを書き、最終的には、表現活動から学んだことを文章化します。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト（教科書）は、印刷して配布する予定である。

#### 参考文献

梶山正人，松平信久，横須賀薫編『心をひらく表現活動』全三巻，教育出版

斎藤公子『さくら・さくらんぼのリズムと歌』群羊社

科目名	生徒指導・進路指導		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

#### 科目の概要

生徒指導は、学校における教科指導と並んで学校教育の中心となるものである。しかし、生徒指導の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。生徒指導の機能について正しく理解し指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生自らの小中学校における生徒指導の体験や課題意識を相互に意見交換し、児童生徒の生き方・在り方にかかわる指導ができるようにする。

#### 学修目標

- ・生徒指導の意義や目的、内容、方法について理解を図りつつ、自らの児童観、教師観を構築していく。
- ・生徒指導上の諸問題について、グループごとに課題を設定し、その対応の仕方を具体的に考察する。
- ・小学校における進路指導の在り方について考察する。

#### 内容

授業は教科書を使って行うが、講義形式だけでなく、自ら課題を見つけ、調査・検討し、発表するグループワークを行う。小学校における指導を意識した具体的な指導力について、体験的に学び合い、互いに高め合える授業をめざす。

1	1. 生徒指導の意義と目的
2	2. 生徒指導の領域・内容と課題
3	3. 生徒指導と教育課程との関連
4	4. 各教科・道徳・特別活動等の生徒指導に果たす役割
5	5. 生徒指導の組織と計画
6	6. 児童・生徒理解の意義と重要性
7	7. 児童・生徒理解の内容と方法
8	8. 児童・生徒理解の具体的な手だての有効性と問題点・留意点
9	9. 生徒指導における集団指導の意義と方法
10	10. 生徒指導における集団指導の実際(1) 思いを伝えづらい雰囲気改善する指導法
11	11. 生徒指導における集団指導の実際(2) 子どもの気持ちをつかむ指導法
12	12. 進路指導の目的と内容
13	13. 小学校における進路指導
14	14. 学習のまとめ・進路指導の方法と指導計画
15	15. まとめ・進路相談実習

## 評価

試験60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。  
合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

## 授業外学習

- 【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。
- 【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】江川? 成編著 『生徒指導の理論と方法』 学芸図書
- 【参考図書】学校教育研究所編 『生徒指導の今日的課題』 学校教育研究所  
新井邦男、住田正樹、岡崎友典編著 『改訂 生徒指導』 放送大学教育振興会  
仙崎 武、野々村新、渡辺三枝子、菊池武剋編 『入門 生徒指導・相談』 福村出版

科目名	幼児理解の理論と方法		
担当教員名	岡上 直子、露木 文恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

幼児期の教育は、幼児理解から始まる。本科目は、幼児教育に関する他の科目を履修する際の基盤となる幼児理解の考え方や具体的な方法を身に付けることを目的としている。

#### 科目の概要

幼児の「発達の過程」の概要と「一人一人の幼児を理解すること」の意味及び方法について理論から学ぶ。また、具体的な幼児の行動記録やビデオ記録等からの読み取りを通して、幼児を理解するための手がかりや方法について学ぶ。

#### 学修目標（＝到達目標）

- ・ 幼児を理解する力の基礎となる幼児の心身の発達や認知の傾向等を理解する。
- ・ 多面的な幼児理解の方法について知る。
- ・ 幼児理解の具体的な視点を学び、幼児の発達や活動の意味を捉える力を身に付ける。

#### 内容

1	幼児理解の意味と重要性	: 岡上直子
2	発達や学びの連続性	: 岡上直子
3	発達の過程と一人一人の幼児の理解（3歳児）	: 露木文恵
4	発達の過程と一人一人の幼児の理解（4歳児）	: 露木文恵
5	発達の過程と一人一人の幼児の理解（5歳児）	: 露木文恵
6	幼児理解のための教師の姿勢	: 露木文恵
7	教師の学び合い・多面的な理解	: 露木文恵
8	集団と個の関係	: 岡上直子
9	幼児の行動記録の方法と留意点	: 岡上直子
10	記録の工夫と実際	: 岡上直子
11	記録の読み取りと分析・考察	: 岡上直子
12	記録の読み取りから深める幼児理解と評価	: 岡上直子
13	日常の評価と指導要録への記入	: 岡上直子
14	幼児理解に求められる教師の専門性	: 岡上直子
15	まとめ	: 岡上直子

#### 評価

授業への取り組み20%、課題レポート提出40%、最終試験の達成度40%で評価し、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容部分(指定箇所)の講読、課題の発見

【事後学修】講義・協議から学んだ内容整理、課題に関するレポート作成、提出

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 文部科学省 幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」 ぎょうせい

【参考図書】 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館

科目名	教育相談		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

〔科目の性格〕

学級担任としての教育相談的対応のためには、他の教師やスクールカウンセラーとの連携による組織的な指導援助を欠かすことができない。学生自身が主体的に学び、相互に意見交流をする体験を通して、教師として大切な協働の精神や人間関係形成力を身につける。

〔科目の概要〕

学校教育において個に応じたきめ細かな指導を進めるために、児童生徒理解を欠かすことはできない。指導にあたる教師が児童生徒のありのままを受け止め、教育相談的にかかわることができるようにするため、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。

〔学修目標〕

- (1) 教育相談やカウンセリングの歴史及び基本的な理論について理解し、学校教育相談の意義や課題について考察する。
- (2) 学校において生徒指導の中核をなす教育相談の果たす役割について理解し、カウンセリングマインドによる具体的な指導のあり方について考察する。
- (3) 学校教育相談の進め方について理解し、カウンセリングの基礎的な技能を身につける。

内容

- 第1回 学校教育と教育相談
- 第2回 乳児期・幼児期における子どもの問題
- 第3回 小学校における子どもの問題
- 第4回 中学校・高等学校における子どもの問題
- 第5回 発達障害の理解と支援
- 第6回 精神疾患の理解と支援
- 第7回 教育相談の理論
- 第8回 教育相談の技法
- 第9回 学級経営に生かす教育相談
- 第10回 学校で使えるアセスメント
- 第11回 保護者への理解と支援
- 第12回 校内及び関係機関との連携、カウンセリングの実際
- 第13回 スクールカウンセラーの活用、カウンセリング模擬体験
- 第14回 カウンセリング実習(1)身内の問題
- 第15回 まとめ、カウンセリング実習(2)将来の問題

評価

毎回の授業の振り返り、レポート課題、発言等の平常点の評価40%、試験による評価60%により評価する。  
合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 〔教科書〕

「教師のたまごのための教育相談」会沢信彦、安齊順子 編著 北樹出版

### 〔推薦書〕

「小学校学習指導要領」文部科学省

「学級教育相談入門」有村久春 著 金子書房

「生徒指導と教育相談」教職教育講座第5巻 長谷川 栄、杉原一昭 編 共同出版

科目名	学校観察実習		
担当教員名	綾井 桜子、清水 玲子、増田 吉史、山本 悟 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修 * , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格 教職専門科目として、必修の実習である。

科目の概要 当学科が指定する新座市内の小学校を中心としたボランティア活動等の経験を通して学校の実際を知る。

学修目標 ・学校教育活動における児童の実態のあらましについて知ること。

・教職員の教育活動の実際を知ること。

#### 内容

・大学の授業がない夏休みや冬休みに、指定した小学校のボランティアに参加する。ボランティア活動時間は、記録証明簿に記載しておく。またウェブ上の履修カルテにも記入すること。

・また、1年間継続的に学級補助ボランティアをすることにより、学校の1年間を見通す。

・毎回、「ボランティア活動日誌」をつけることにより、自分の行動、見方、考え方を振り返る。それは、自分自身を見つめ直すことであり、自己を磨くことにつながる。その中から、自分の考え方の変化や教師を目指そうとする確固とした意識の芽生えが起こってくる。そうしてこそ、子どもとの関わり方などの教育技術も身につけることができる。

さらに、学校現場に身を置くことにより、教師としての、言葉使い、服装、行動、その他さまざまな留意点にも配慮できる経験を積む。

#### 評価

ボランティア活動時間ならびに活動日誌を点検することで、学生個々の学校観察の内容を吟味して採点する。

#### 授業外学習

【事前予習】教師としての服装、身だしなみ、言葉遣い等、事前に確認をする。

【事後学修】ボランティア活動の日誌を必ず整理する。活動後30分。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

事前指導の折に、適宜、紹介する。



科目名	<b>教育実習事前事後指導</b>		
担当教員名	松木 正子、綾井 桜子、狩野 浩二、清水 玲子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

【履修登録は、通常では3年次後期に行ってください。前期科目は再履修者用です】

科目の性格

この授業は教職員免許法で定める小学校の教育実習に係わる事前事後の指導を行うことをねらいとしている。

科目の概要

教育実習の目的、進め方、教育実習へ臨む心構えを初め、実際の授業の進め方、指導案の作成の方法等について講義、演習を行う。

また、教育実習後の発表、協議を行う。

学修目標

教員にかかわる法規について知る。

実習の意義と心構えについて学ぶ。

指導案の作成や授業を想定し模擬的に行うことができる

内容	
1	教育実習ガイダンス
2	教育関係法規
3	教育関係法規
4	教育課程、生徒指導
5	小学校学習指導要領
6	小学校学習指導要領
7	小学校学習指導要領
8	指導案を書く意義と書き方の基本
9	実習を終えて（4年生の話）
10	教育実習に向けて
11	教育実習に向けて
12	事例研究
13	事例研究
14	教育実習事後指導
15	教育実習事後指導

評価

事前指導におけるレポート（2割）、指導案等の取り組み状況（3割）

事後指導における研究協議の内容、自己評価の内容（5割）

授業外学習

【事前予習】課題について予習をしてくる。

【事後学修】学修について復習課題を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説総則編（文部科学省），

「必携」学校小六法 杉原誠四郎監修 共同出版社

科目名	<b>教育基本実習</b>		
担当教員名	山本 悟、綾井 桜子、清水 玲子、増田 吉史 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

3年時に通年で1単位の必修科目である。

科目の概要

小学校でのボランティア活動を中心に、学校現場に出て行う実習である。

学修目標（ = 到達目標 ）

年間20日を目安とし、配当学校の実情に合わせてボランティアを行い、学校現場の実態を知り応用実習の心構えを持つ。

内容

年間を通じて配当学校の実情に合わせて 20日を目安にボランティア活動を行う。その際、2年生とチームを組みリーダーとして運営、連絡を担当する。

評価

配当学校の実情により活動内容が異なるため、実習日誌の記録、および学校からの情報をもとに判断する。

授業外学習

【事前予習】連絡調整の有無。

【事後学修】自習日誌の記録。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

必要に応じて指示する。

科目名	<b>教育応用実習</b>		
担当教員名	松木 正子、綾井 桜子、狩野 浩二、清水 玲子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	3
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

卒業要件に係る必修科目である。また小学校の教員免許を取得するためにも必要である。4週間の小学校現場での実習を行う。

#### 科目の概要

4年時の5～6月ごろに小学校での実習を行う。その際は、学生ではあるが、教員の一員としての自覚を持ち、小学生の前に立つ。参観だけでなく、学級担任として清掃、給食のような生活指導や学修補助、および実際の授業も体験する。学校長はじめ教員からの講和や指導案の作成など教育現場でしかできない学びをする。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

小学校の教員としての自覚を持ち、4週間という長期の実習期間を健康に行うことができる。

#### 内容

配属校によって違いがあるが概ね次のような流れになる。

- 第1週 学校現場の様子になれる。
- ・校長、教務など それぞれの役割についての講和。
  - ・配属学級の子どもたちを知り、授業を参観する。

- 第2週 担任の補助として、積極的に学級指導にかかわる。  
授業の担当などが示され、準備にかかるようになる。

- 第3週 同上  
実際に指導案を書き、授業をする。

- 第4週 研究授業に向けて準備をし、実際に研究授業をおこなう。

## 評価

出勤状況、教師としての実務能力、教材研究など授業実践に係る能力、児童に対する態度などについて小学校現場で指導に当たった側の評価、日誌などを総合的に判断する。

## 授業外学習

【事前予習】実習のための準備

【事後学修】実習の振り返り

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

必要に応じて指示する。

科目名	幼稚園教育実習(事前・事後指導を含む)		
担当教員名	岡上 直子、綾井 桜子、狩野 浩二、清水 玲子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

## ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

### 科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状取得のための保育現場における総合的実習の科目である。

小学校教諭免許状取得のための小学校教育実習をあわせて受講する者が履修対象である。

幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとする事が求められる。

### 科目の概要

幼稚園教育の基本となる考え方、幼児の発達の特長、教育実習を行う際の心構え等について学び、実習園における総合実習及び実習の経験から学んだことの理解を深める。

### 学修目標(=到達目標)

- ・幼稚園教育の理念・特質を理解する
- ・幼稚園教育の具体的な指導内容・方法について理解する
- ・幼稚園教諭として必要な保育観、知識・技能などを学び、指導力を身に付ける
- ・幼稚園教育と小学校教育の接続について理解する

## 内容

### (1) 事前指導

幼稚園教育の基本となる考え方について学び、課題意識をもって実習に臨めるよう、幼稚園教育の実際について具体的なイメージを広げる。

- 1回目 実習の目的・目標、内容等にかかわるオリエンテーション
- 2～5回目 幼児の発達の特長理解、観察・記録の方法と実際
- 6～9回目 幼稚園の教育課程・指導計画の考え方、指導案の作成、
- 10～11回目 保育内容(指導)と評価、日誌の書き方
- 12回目 実習園におけるオリエンテーション(園長、実習担当の教職員等による)

### (2) 総合実習

小学校教諭1種免許状を取得することを前提条件としているので、実習期間は、1週間である。

参加観察実習と責任実習を含む総合実習を連続して行う。

- ・実習日誌を毎日書き、実習園の担当教諭等から指導を受ける。
- ・幼児集団を指導する責任実習(部分・1回)を行う。
- ・実習に当たっては、学級や幼児の実態に即した指導案を作成し、実習園の担当教諭等から指導を受けることとする。

実習園は原則として学校指定の園とする。

### (3) 事後指導

学内での実習報告や実習日誌を手がかりとして、幼稚園教育に関する理解を深める。

- 1 回目 幼稚園教育の独自性
- 2 回目 幼稚園における学びの評価
- 3 回目 保育における教師の役割

### 評価

実習指導園から実習の取り組み状況等に関する評価を受け、それを参考に実習担当教員が評価する。

実習日誌、事前事後指導における取り組み状況や提出物も評価対象となる。

事前事後指導中の取り組み態度及び実習日誌等の提出物を40%、教育実習の勤務状況、実習の取り組み姿勢及び実習園の成績評価等を60%として、総合的に評価し、60点以上を合格とする。

### 授業外学習

【事前予習】 提示する課題に関する事前調査、情報検索

【事後学修】 学修のまとめとして提示する課題に関するレポートの作成

### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 プリントを配布する

【参考書】 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館

文部科学省 幼稚園教育指導資料第3集 「幼児理解と評価」 ぎょうせい

【推薦書】 授業の中で、適宜紹介する

科目名	教職実践演習（幼・小）		
担当教員名	松木 正子、増田 吉史、狩野 浩二、皆川 美恵子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

教職を目指す受講者のための必修科目である。

教師としての自己の教育に対する考え方、教師としての自己のあり方等の根本となる信念の確立をめざすものである。

#### 科目の概要

学校教育の具体的な課題を取り上げ、教師としての考え方及び自己のあり方を考察し、自己の考え方を文章、口頭、討論などで表していく活動に取り組む。

#### 学修目標

- ・ 教育現場に立つために、自己の教師としての学習指導、生徒指導、評価評定、保護者への対応に対する考え方、あり方等をより一層磨き深める、社会に出てからの円滑なスタートを目指す。

## 内容

### 1 オリエンテーション

### 2 ~ 7 下記のテーマより1つを選択し、学びを深める。

組織としての学校学級経営

人権教育

授業づくり

評価評定

### 8 ~ 13 下記のテーマより1つを選択し、学びを深める。

学級経営

特別支援教育

保護者対応

健康安全

14 自己の学校教育に対する考え方、具体的取り組み方を言葉により表現する。

15 まとめ

## 評価

課題レポート・提出物・（60点）、授業への取り組み・小テスト（40点）などにより総合的に評価する。



## 授業外学習

【事前予習】自分が目指す目標について、十分なものと不十分なところを整理しておく。

【事後学修】講義・演習のたびに、達成できていないものを確認し、達成できるように補充学修をする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 参考書

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
- ・ 小学校学習指導要領解説（総則編） 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 各種審議会等からの答申 等
- ・ 都道府県・政令市が掲げる教育施策・求める教師像 等

科目名	国語		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教諭一種、幼稚園教諭一種免許を取得するための必修科目である。

科目の概要

小学校の国語科を指導するにあたっての言語に関する一般常識を身につける。

学修目標（=到達目標）

ことばについての知識や「学び方」を知る。

「ことばの学び」に必要な知識を実践を通して身につける。

言語活動を通して、「ことば」に対する関心を高める。

内容	
1	ガイダンス（ことばの学びとは何か）
2	文字（ひらかな、カタカナ、漢字）
3	漢字（熟語、筆順の決まりなど）
4	語句（ことわざ、慣用句、四字熟語など）
5	ことばについて（敬語、句読点、辞書 など）
6	論理的に考える（説明的な文章）
7	論理的に考える（説明的な文章）
8	新聞を読む（感想をもって）
9	新聞を読む（プレゼンテーション）
10	詩を味わう
11	詩を味わう
12	自分の考えを書く
13	文字を整える
14	考えを整理する（新聞づくり）
15	まとめ

評価

ミニレポート（3割）、実践参加の状況（3割）、最終レポート（4割）とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】課題により事前準備を必要とするものがある。

【事後学修】広義の後で復習を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説（国語編）文部科学省、  
授業内で指示する。

【推薦書】

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	算数		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

幼児期から形成される数学的な概念を、小学校算数科の内容と関連づける。「初等算数科教育」「教材研究(算数)」「授業研究(算数)」へと発展していく。

算数は低学年から高学年の学年進行にしたがって段階的に高度になる指導の系統を考察し、小学校入学前の幼児期の遊びや生活を通じた数や量の形の概念獲得を知る。算数科の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。

幼児期から形成される数学的な概念を、小学校算数科の内容と関連づけ、さらに問題解決学習を体感する。

内容	
1	ガイダンス、小学校における算数科の役割と幼児教育
2	学習指導要領における算数、数感覚、個数を数えること、1対1対応
3	幼児の数感覚、十進位取り記数法
4	同じ数ずつの集まり、数の相対的な大きさ
5	どちらが多い、すごろく遊び、ものと数詞の対応、数の表し方
6	幼稚園での遊びの中での数、数概念、数直線
7	数の大小、順序と系列あわせていくつ、ピンゴ・ゲーム
8	幼稚園で数に関わること、加法・減法の意味、加法・減法の計算
9	数の増減、数当てゲーム、整数の性質、問題解決的な学習
10	仲間集めと分類、くらべてみよう
11	身近な量の大きさ
12	比べ方と量の保存、量の測定
13	幼児の図形と空間の感覚、形作り、型押し、影遊び、模様作り
14	幼児児童の数量感覚、変わり方のパターン
15	振り返りとまとめ

#### 評価

小テストや提出物(80%)、試験(20%)で評価し、60%以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】小学校学習指導要領解説算数編(文部科学省)の関連箇所を読む

【事後学修】学習指導要領解説算数の関連箇所を読み理解を深める

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著(東洋館出版社)

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び、理論編(明治図書)

算数科コース別指導による確かな学び、1 - 3年実践編（明治図書）

算数科コース別指導による確かな学び、4 - 6年実践編（明治図書）

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。



科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 ( 70% ) 通常の授業態度 ( 30% )、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

[テキスト]バイエル教則本 ( 全音楽譜出版 ) ソナチネ1 ( 全音楽譜出版 )

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 ( 70% ) 通常の授業態度 ( 30% ) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

[テキスト]バイエル教則本 ( 全音楽譜出版 ) ソナチネ1 ( 全音楽譜出版 )

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 ( 音楽 ) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 ( 70% ) 通常の授業態度 ( 30% ) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

[テキスト]バイエル教則本 ( 全音楽譜出版 ) ソナチネ1 ( 全音楽譜出版 )

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Lクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 ( 70% ) 通常の授業態度 ( 30% )、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

[テキスト]バイエル教則本 ( 全音楽譜出版 ) ソナチネ1 ( 全音楽譜出版 )

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。



科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Mクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Nクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Pクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子、清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学修目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 ( 70% ) 通常の授業態度 ( 30% )、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

[テキスト]バイエル教則本 ( 全音楽譜出版 ) ソナチネ1 ( 全音楽譜出版 )

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子、清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学修目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子、清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学修目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。



科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学修目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	加倉井 佳世子、清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学修目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	浜野 範子、清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学修目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	矢部 尚子、清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学修目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子、清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Mクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学修目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Nクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学修目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子、清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Pクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学修目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Qクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 ( 70% ) 通常の授業態度 ( 30% )、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

[テキスト]バイエル教則本 ( 全音楽譜出版 ) ソナチネ1 ( 全音楽譜出版 )

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。



科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Rクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	図画工作		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得することを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を身につけてほしい。

#### 内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
6	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
7	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
8	身近にある材料を使った表現
9	身近にある材料を使った表現
10	身近にある材料を使った表現
11	身近にある材料を使った表現
12	身近な材料でつくって遊ぶ
13	身近な材料でつくって遊ぶ
14	身近な材料でつくって遊ぶ
15	まとめ

#### 評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する ( 60点 ) 。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出 ( 40点 ) とし、総合評価60点以上で合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること ( 適宜・指示します ) 。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

適宜、紹介する。

## 推薦書

- ・ 東山明 『絵画・製作・造形あそび指導百科』 ひかりのくに
- ・ 阿部寿文・舟井賀世子 『0・1・2歳児の造形あそび百科』 ひかりのくに
- ・ 平田智久・小野和編著 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 保育出版社

科目名	図画工作		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得することを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を身につけてほしい。

#### 内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
6	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
7	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
8	身近にある材料を使った表現
9	身近にある材料を使った表現
10	身近にある材料を使った表現
11	身近にある材料を使った表現
12	身近な材料でつくって遊ぶ
13	身近な材料でつくって遊ぶ
14	身近な材料でつくって遊ぶ
15	まとめ

#### 評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する ( 60点 )。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出 ( 40点 ) とし、総合評価60点以上で合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること ( 適宜・指示します )。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

適宜、紹介する。

## 推薦書

- ・ 東山明 『絵画・製作・造形あそび指導百科』 ひかりのくに
- ・ 阿部寿文・舟井賀世子 『0・1・2歳児の造形あそび百科』 ひかりのくに
- ・ 平田智久・小野和編著 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 保育出版社

科目名	体育		
担当教員名	山本 悟、佐藤 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

幼稚園教諭、小学校教諭免許状取得に関する選択必修科目の1つである。体育科の基本的な考え方や授業づくりの基礎を学ぶことをねらいとしている。

#### 科目の概要

運動を教材として扱うため、授業は実技を交えて展開し、小学校で扱う内容を中心に運動技能の向上と運動教材の仕組みを理論的に学ばせる。2名の授業担当者が専門分野を生かしたオムニバス形式で授業を進める。また、体育科の指導法に関する総まとめとして、受講学生が子ども役の仲間を指導する模擬授業も実施する予定である。併せて、児童期（幼児期も含む）の身体的特性や保健衛生の基礎に関する知識を深める講義を行う。

#### 学修目標

身体を動かすことを楽しみながら、子どもに運動を伝えたり指導したりするための基本的な知識・技能・ノウハウを身につけることをねらいとする。

内容		
1	オリエンテーション、運動会種目の理解と実践	: 山本、佐藤
2	鉄棒運動（ダルマ回り）、陸上運動（ハードル走 : 跳び方のコツを探る）	: 山本
3	鉄棒運動（腕立て後転）、陸上運動（ハードル走 : チーム対抗の競走）	: 山本
4	鉄棒運動（腕立て前転）、陸上運動（リレー競技の工夫と教材研究）	: 山本
5	器械運動（マット運動：側転、跳び箱運動：開脚とび、台上前転）	: 山本
6	ネット型ボール運動（ソフトバレーボール：基本技能の練習、簡易ゲームの進め方）	: 佐藤
7	ネット型ボール運動（プレルボール：基本技能とゲームの進め方の理解）	: 佐藤
8	表現運動（リズムダンスとその工夫）	: 佐藤
9	表現運動（創作活動と発表会）	: 佐藤
10	模擬授業（授業づくりと指導案作成の復習、ビデオ映像から学ぶ授業技術とポイント）	: 山本
11	模擬授業（マット運動、なわとび運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	: 山本
12	模擬授業（前転ボール捕り、跳び箱運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	: 山本
13	ゴール型ボール運動（ボールを持たない動きの理解とその指導法）	: 佐藤
14	ゴール型ボール運動（ドリルゲームとタスクゲームの実践：バスケットを題材に）	: 佐藤
15	ゴール型ボール運動（コーンボール、フリスビーを使った教材の工夫とその指導）	: 佐藤

#### 評価

平常点（授業への取り組みで評価：運動量、協働性、意欲と関心）60点、模擬授業の発表およびレポート40点として、総合的に評価する。また、合格点60点に満たなかった場合は再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備とレジュメ作成（学習指導案）。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）

【推薦書】 筑波大学附属小学校体育部 編 「子どもが力をつける体育授業」 不昧堂出版

科目名	体育		
担当教員名	山本 悟、佐藤 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

幼稚園教諭、小学校教諭免許状取得に関する選択必修科目の1つである。体育科の基本的な考え方や授業づくりの基礎を学ぶことをねらいとしている。

科目の概要

運動を教材として扱うため、授業は実技を交えて展開し、小学校で扱う内容を中心に運動技能の向上と運動教材の仕組みを理論的に学ばせる。2名の授業担当者が専門分野を生かしたオムニバス形式で授業を進める。また、体育科の指導法に関する総まとめとして、受講学生が子ども役の仲間を指導する模擬授業も実施する予定である。併せて、児童期（幼児期も含む）の身体的特性や保健衛生の基礎に関する知識を深める講義を行う。

学修目標

身体を動かすことを楽しみながら、子どもに運動を伝えたり指導したりするための基本的な知識・技能・ノウハウを身につけることをねらいとする。

内容

1	オリエンテーション、運動会種目の理解と実践	: 山本、佐藤
2	ネット型ボール運動（ソフトバレーボール：基本技能の練習、簡易ゲームの進め方）	: 佐藤
3	ネット型ボール運動（プレルボール：基本技能とゲームの進め方の理解）	: 佐藤
4	表現運動（リズムダンスとその工夫）	: 佐藤
5	表現運動（創作活動と発表会）	: 佐藤
6	鉄棒運動（ダルマ回り）、陸上運動（ハードル走 : 飛び方のコツを探る）	: 山本
7	鉄棒運動（腕立て後転）、陸上運動（ハードル走 : チーム対抗の競走）	: 山本
8	鉄棒運動（腕立て前転）、陸上運動（リレー競技の工夫と教材研究）	: 山本
9	器械運動（マット運動：側転、跳び箱運動：開脚とび、台上前転）	: 山本
10	ゴール型ボール運動（ボールを持たない動きの理解とその指導法）	: 佐藤
11	ゴール型ボール運動（ドリルゲームとタスクゲームの実践：バスケットを題材に）	: 佐藤
12	ゴール型ボール運動（コーンボール、フリスビーを使った教材の工夫とその指導）	: 佐藤
13	模擬授業（授業づくりと指導案作成の復習、ビデオ映像から学ぶ授業技術とポイント）	: 山本
14	模擬授業（マット運動、なわとび運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	: 山本
15	模擬授業（前転ボール捕り、跳び箱運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	: 山本

評価

平常点（授業への取り組みで評価：運動量、協働性、意欲と関心）60点、模擬授業の発表およびレポート40点とし



て、総合的に評価する。また、合格点60点に満たなかった場合は再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備とレジュメ作成（学習指導案）。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）

【推薦書】 筑波大学附属小学校体育部 編 「子どもが力をつける体育授業」 不昧堂出版

科目名	社会		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

教科科目の1つである「社会」が学校教育の中で、どのような分野を担当しているのか、その位置づけと社会科の目標及び内容の全体を把握し理解するものである。

### 科目の概要

- ・社会科は、「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」と大きく3つに分かれるが、各分野で取り上げられる事象（学習内容や項目）についていくつか事例的に取り上げ、その内容について考察する。
- ・社会科における資料の取扱いや活用について考察する。

### 学修目標

- ・小学校教育の中における教科としての「社会」の意義や役割、目標について理解を深める。
- ・社会科の学習内容の主なものについて事例的に取り上げ、理解を深める。

## 内容

- 1 ガイダンス 小学校社会科の変遷 社会科の目標と主な内容
- 2 低学年の生活科とのかかわり 学習内容とのかかわり
- 3 中学年社会科の学習内容 3学年・4学年
- 4 高学年社会科の学習内容 5学年・6学年
- 5 社会科学習における地理的内容（1）
- 6 社会科学習における地理的内容（2）
- 7 社会科学習における図表の活用（1） 地図の見方・活用の仕方
- 8 社会科学習における図表の活用（2） 地形図の活用の仕方
- 9 社会科学習における歴史的内容（1）
- 10 社会科学習における歴史的内容（2）
- 11 社会科学習における図表の活用（3） 年表の見方・活用の仕方
- 12 日本歴史年表を作る 歴史上の出来事を年表に表し、年表上で考える
- 13 社会科学習における公民的内容（1）
- 14 社会科学習における公民的内容（2）
- 15 まとめ

## 評価

課題レポートなどの提出物60点、授業への取り組み（授業のまとめ、小テスト等）40点、に

より総合的に評価する。

#### 授業外学習

【事前予習】授業前に、都道府県名と地図上の位置、年代とその時代の人物のつながりをそれぞれの授業内容に合わせて準備し、理解しておく。

【事後学修】その時間に学習した内容を、学年に沿ってまとめておく。毎時間30分。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### 参考図書

- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編） 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍

科目名	社会		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

教科科目の1つである「社会」が学校教育の中で、どのような分野を担当しているのか、その位置づけと社会科の目標及び内容の全体を把握し理解するものである。

### 科目の概要

- ・社会科は、「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」と大きく3つに分かれるが、各分野で取り上げられる事象（学習内容や項目）についていくつか事例的に取り上げ、その内容について考察する。
- ・社会科における資料の取扱いや活用について考察する。

### 学修目標

- ・小学校教育の中における教科としての「社会」の意義や役割、目標について理解を深める。
- ・社会科の学習内容の主なものについて事例的に取り上げ、理解を深める。

## 内容

- 1 ガイダンス 小学校社会科の変遷 社会科の目標と主な内容
- 2 低学年の生活科とのかかわり 学習内容とのかかわり
- 3 中学年社会科の学習内容 3学年・4学年
- 4 高学年社会科の学習内容 5学年・6学年
- 5 社会科学習における地理的内容（1）
- 6 社会科学習における地理的内容（2）
- 7 社会科学習における図表の活用（1） 地図の見方・活用の仕方
- 8 社会科学習における図表の活用（2） 地形図の活用の仕方
- 9 社会科学習における歴史的内容（1）
- 10 社会科学習における歴史的内容（2）
- 11 社会科学習における図表の活用（3） 年表の見方・活用の仕方
- 12 日本歴史年表を作る 歴史上の出来事を年表に表し、年表上で考える
- 13 社会科学習における公民的内容（1）
- 14 社会科学習における公民的内容（2）
- 15 まとめ

## 評価

課題レポートなどの提出物60点、授業への取り組み（授業のまとめ、小テスト等）40点、に

より総合的に評価する。

#### 授業外学習

【事前予習】授業前に、都道府県名と地図上の位置、年代とその時代の人物のつながりをそれぞれの授業内容に合わせて準備し、理解しておく。

【事後学修】その時間に学習した内容を、学年に沿ってまとめておく。毎時間30分。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### 参考図書

- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編） 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍

科目名	生活		
担当教員名	清水 一豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

小学校低学年の教科 生活科についての理解を深める。生活科は低学年児童の発達段階に即して誕生した教科であることを様々な資料や活動から学んでいく。幼稚園教育要領の5領域とも関連させて学びの連続性の視点からも生活科をとらえていく。

#### 科目の概要

生活科の目標や内容についての概要を理解し、生活科で展開される多様な学習活動の特性を理解し、教材や学習活動の選択肢を広げようとする。子ども時代を過ごした地域社会を表現し、子どもの世界を探る。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

- ・ 幼児教育と密接にかかわる生活科の目標や内容、体験を重視する授業等の理解を深め生活科の授業をイメージすることができる。
- ・ 体験や具体的な活動における学びの姿やその価値に関心を持つことができる。
- ・ 子どもの立場に立って作品や活動を通してそれらの中に見られる子どもの思いや願いを読み取ることができる

#### 内容

1	オリエンテーション	生活科教育目標	生活科授業を体験して
2	生活科創設の経過と背景	子どもの生活体験と発達課題	
3	生活科の目標	学年目標	教科の特性
4	内容の階層と9つの内容		
5	生活科の特色	気づき・思考・表現	
6	生活科の特色	体験・具体的な活動	
7	学習活動の実際	探検する	雑木林探検
8	学習活動の実際	遊ぶ	秋の木の実等
9	学習活動の実際	つくる	うごくおもちゃ
10	学習活動の実際	表現する	絵 文章 俳句
11	生活科と幼保・小の連携		
12	私の「原風景」	生活科マップをつくる	
13	私の「原風景」を伝えあう		
14	生活科授業の要諦	教師の役割	
15	生活科授業への期待		

#### 評価

毎回の授業レポ ( 30% ) 授業での課題レポート, 課題作品 ( 50% ) , 授業への参加態度 ( 20% ) 総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】 各回の授業で扱う項目について、テキストや資料を読み、理解できたこと、理解できなかったことを明確にして授業に出席すること

【事後学修】 授業中に指示した課題に取り組んだり、授業で理解できないことについて図書館等でさらに調べ、理解に向け努力する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 小学校学習指導要領解説 生活科編 文部科学省 日本文教出版  
小学校生活科教科書「せいかつ」（上・下） 光村図書出版

【推薦書】

【参考図書】

科目名	理科		
担当教員名	津吹 卓、塚田 昭一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

選択科目だが、3年の初等理科教育につながるので、履修が望ましい。

#### 科目の概要

理科を学ぶとはどのようなことかを、観察や実験を通して体験的に学ぶ。大学生になるまでに多くの学生が抱いてしまった理科に対しての間違ったイメージを、素直な気持ちで理科に取り組むことで払拭できればと思う。

#### 学修目標(=到達目標)

白紙に戻り童心に帰って、これまでの苦手意識や知識・理解は気にしないで観察・実験に素直に向き合う。そして疑問や不思議なこと・意外なことに気づき、自分の頭で「なぜだろうと」考える体験をする。ただ正解を覚えるのではなく、ナゾを解こうと素直に考える中で、習っていなくても考えると分かるという学びの喜びが感じられ、本来の理科が見えてくる。

#### 内容

基本はアドバイスをするが、観察・実験等は自主的に考えて進めてもらう。最も大切なことは、正解とか成功ではなく、観察や実験の結果から何が起きたのかを考えて理解し納得することである。理科を楽しもう。なお、下記の予定は季節や皆さんの状況により変化する。

授業時間外にも、発芽実験をし、また植物の変化を春から夏まで眺めてもらう。

1	理科教育とは何か、理科を教える上で学生にとって何が問題なのかを話し合う
2	観察：自然を知るとはどのようなことか
3	春の植物観察：観察方法の工夫
4	春の植物観察：観察のまとめ
5	春の植物観察：観察の発表
6	春の植物観察：観察の発表
7	実験：化学系
8	実験：化学系
9	実験：生物・化学系
10	実験：物理系
11	実験：物理系
12	夏の植物観察：観察方法のレベルアップと春からの成長の流れ
13	夏の植物観察：植物の春から夏への変化の発表
14	夏の植物観察：植物の春から夏への変化の発表



**評価**

実験毎のワークシート40%，植物観察・発芽のレポート40%，筆記試験20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

**授業外学習**

【事前予習】キャンパスの植物は継続観察し意味を考え続ける。発表の構成の話し合い。

【事後学修】ワークシート記入・大きなレポートの作成・疑問の解消と内容の納得。

**教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）**

【教科書】使用しない

【推薦書】特になし

【参考図書】文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編

科目名	理科		
担当教員名	津吹 卓、塚田 昭一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

選択科目だが、3年の初等理科教育につながるので、履修が望ましい。

#### 科目の概要

理科を学ぶとはどのようなことかを、観察や実験を通して体験的に学ぶ。大学生になるまでに多くの学生が抱いてしまった理科に対しての間違ったイメージを、素直な気持ちで理科に取り組むことで払拭できればと思う。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

白紙に戻り童心に帰って、これまでの苦手意識や知識・理解は気にしないで観察・実験に素直に向き合う。そして疑問や不思議なこと・意外なことに気づき、自分の頭で「なぜだろうと」考える体験をする。ただ正解を覚えるのではなく、ナゾを解こうと素直に考える中で、習っていなくても考えると分かるという学びの喜びが感じられ、本来の理科が見えてくる。

#### 内容

基本はアドバイスをするが、観察・実験等は自主的に考えて進めてもらう。最も大切なことは、正解とか成功ではなく、観察や実験の結果から何が起きたのかを考えて理解し納得することである。理科を楽しもう。なお、下記の予定は季節や皆さんの状況により変化する。

授業時間外にも、発芽実験をし、また植物の変化を春から夏まで眺めてもらう。

1	理科教育とは何か、理科を教える上で学生にとって何が問題なのかを話し合う
2	観察：自然を知るとはどのようなことか
3	春の植物観察：観察方法の工夫
4	春の植物観察：観察のまとめ
5	春の植物観察：観察の発表
6	春の植物観察：観察の発表
7	実験：化学系
8	実験：化学系
9	実験：生物・化学系
10	実験：物理系
11	実験：物理系
12	夏の植物観察：観察方法のレベルアップと春からの成長の流れ
13	夏の植物観察：植物の春から夏への変化の発表
14	夏の植物観察：植物の春から夏への変化の発表

**評価**

実験毎のワークシート40%，植物観察・発芽のレポート40%，筆記試験20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

**授業外学習**

【事前予習】キャンパスの植物は継続観察し意味を考え続ける。発表の構成の話し合い。

【事後学修】ワークシート記入・大きなレポートの作成・疑問の解消と内容の納得。

**教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）**

【教科書】使用しない

【推薦書】特になし

【参考図書】文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編

科目名	家庭		
担当教員名	勝田 映子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

家庭生活を中心に小学校5, 6年児童を対象にした教科である家庭科の概要を扱う。家庭科教育の変遷を踏まえて生活における今日的課題も取り扱う。児童の実態や実践を盛り込んでこれからの家庭科のあり方を考えると共に家庭科教育の中でも特に小学校の指導に視点を置き、小学校学習指導要領の中にどのように位置づけられているかを把握する。個人の生活に関する課題追求の他、児童が行う調理実習や被服製作の一端にも触れ理解を深める。指導法にも多様な方法があることを知る。

#### 内容

##### 1、家庭科教育で何を学ぶのか

本授業の計画と評価、個人で準備するものなどのガイダンス

自分の家庭生活を振り返る。生活レポートの提出についての説明。

##### 2、家庭科教育について

家庭科で育てる力、家庭科の歴史と内容領域 - なぜ学校で家庭科を学ぶのか -

学習指導要領を読み込む ( 教科目標、内容、指導上の留意事項、他教科との関連 )

##### 3、小学校家庭科の主な学習内容

衣食住家族生活等の領域の主な内容を解説し、簡単な実践や実習を行う。

家族との生活 ( ロールプレイングをグループで制作し発表する。 )

食物と栄養、栄養素とそのはたらき

食生活の見直し、一食分の献立作り

調理の基礎 1 - ゆでる・いためる調理の科学

調理の基礎 2 - 米飯と味噌汁の調理の科学

情報と消費社会 ( 児童をめぐる情報・消費生活の実態。消費者教育 )

快適な住まい方 生活と環境

衣服の役割と手入れ

手縫いの基礎技能

～ 生活に役立つ物の製作

##### 4、これからの家庭生活について

学習のまとめ これからの家族と家庭生活

できるだけ実践的・体験的な活動を取り入れる。

実習室使用の関係で順序が入れ替わることがある

#### 評価

生活レポート 10 %、毎回課題レポート 75 %、作品 15 % 程度で総合的に評価する。

## 授業外学習

【事前予習】生活に関する情報に関心を持ち、テーマを決めて資料を使って調べておく。

【事後学修】講義内容に関するて小学校家庭科教科書や学習指導要領解説（家庭科編）を読んでおく。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校家庭科教科書『新しい家庭5・6』（東京書籍） 小学校学習指導要領解説（家庭編）

【推薦書】『できますか？教えられますか？家庭科の基本』流田直監修・勝田映子他著（学研教育みらい）

【参考図書】授業内で紹介提示する。

科目名	特別支援教育概論		
担当教員名	岩井 雄一、吉川 知夫、阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

障害児教育が「特殊教育」から「特別支援教育」へ制度的転換する中で、従前の特殊教育制度の枠を超えて、地域の通常の学校（学級）においても、特別な支援を必要とする児童生徒への対応が求められています。本科目は、特別支援教育に関する科目の第一欄の特殊教育の基礎理論に関する科目に該当します。

本講義では、特別支援教育の歴史、法制度を概観するとともに、特別な教育的ニーズのある児童生徒に関して、その障害の特性と支援方法を論じ、関係機関との連携の在り方を学びます。

学修目標は、 特別支援教育の基礎を理解すること、 特別支援教育が必要な子どもの障害と教育的支援方法を理解すること、 関係機関との連携について理解すること、の3点です。

内容	
1	特別支援教育とは
2	障害児教育の歴史と発展
3	特別支援教育の法制度 学校教育法を中心に
4	特別支援教育体制の現状
5	特別支援教育における教育課程の編成
6	障害の理解と教育的支援1) 視覚障害・聴覚・言語障害
7	障害の理解と教育的支援2) 知的障害
8	障害の理解と教育的支援3) 肢体不自由・病虚弱
9	障害の理解と教育的支援4) 情緒障害・自閉症・高機能自閉症（アスペルガー症候群を含む）
10	障害の理解と教育的支援5) LD（学習障害）・AD/HD（注意欠陥/多動性障害）
11	特別支援教育の展開1) 小・中学校における校内支援と連携システム
12	特別支援教育の展開2) 特別支援学校の地域支援と連携システム
13	特別支援教育における関係機関の連携1) 保育所・幼稚園の活用とその利用
14	特別支援教育における関係機関の連携2) 医療・福祉機関の役割とその活用
15	まとめ

評価

試験による評価（70点）と中間レポートによる評価（20点）、平常の授業態度の評価（10点）により総合的に行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】シラバスを参考に事前に参考書等により内容を把握し、疑問点を整理しておくこと。

【事後学修】配布された資料により各自で振り返りを行い、内容を整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】使用しません。

【参考図書】「特別支援教育基礎論」吉田昌義、鳥居深雪編著、放送大学出版 「特別支援教育の基礎・基本」国立特別支援教育総合研究所著作、ジアース教育新社発行

【その他】必要に応じて随時紹介します。

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

LD・AD/HD・言語障害・情緒障害の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学び、個々の教育的ニーズに応えることができる。

実際の授業に活かせるようなアセスメント、指導計画や指導案の作成について実践的に授業を進める。実践例、グループによる調査、報告、ロールプレイを通して実際の・実践的に学ぶ。

児童・生徒に合わせた指導法の理解を深める。アセスメントに基づき、指導案・指導形態・教材等の作成などができる。

#### 内容

##### 授業計画

第1回：発達障害（言語障害・情緒障害・LD・AD/HD等）の理解

第2回：LDの理解

第3回：AD/HDの理解

第4回：高機能自閉症等の理解

第5回：アセスメントの基礎

第6回：心理検査法 <WISC K-ABC>

第7回：学力のアセスメント

第8回：読み・書きの指導

第9回：算数の指導

第10回：言語・コミュニケーションの指導

第11回：個別の指導計画の作成と実施

第12回：学校における支援体制：通常学級における支援

第13回：学校における支援体制：コーディネーターの役割

第14回：社会的自立・就労の問題

第15回：保護者との連携・地域との連携

#### 評価

試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加度の評価（10%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】各障害の定義・特徴・支援方法を調べておく。

【事後学修】講義内容をボランティアなどの体験を通し、教育現場で役に立つようにまとめる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト



使用しません。

参考書・参考資料等

特別支援教育の理論と実践

金剛出版

「自閉症ガイドブック シリーズ1 乳幼児編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ2 学齢期編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ3 思春期編」社団法人 日本自閉症協会

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

LD・AD/HD・言語障害・情緒障害の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学び、個々の教育的ニーズに応えることができる。

実際の授業に活かせるようなアセスメント、指導計画や指導案の作成について実践的に授業を進める。実践例、グループによる調査、報告、ロールプレイを通して実際の・実践的に学ぶ。

児童・生徒に合わせた指導法の理解を深める。アセスメントに基づき、指導案・指導形態・教材等の作成などができる。

#### 内容

##### 授業計画

第1回：発達障害（言語障害・情緒障害・LD・AD/HD等）の理解

第2回：LDの理解

第3回：AD/HDの理解

第4回：高機能自閉症等の理解

第5回：アセスメントの基礎

第6回：心理検査法 <WISC K-ABC>

第7回：学力のアセスメント

第8回：読み・書きの指導

第9回：算数の指導

第10回：言語・コミュニケーションの指導

第11回：個別の指導計画の作成と実施

第12回：学校における支援体制：通常学級における支援

第13回：学校における支援体制：コーディネーターの役割

第14回：社会的自立・就労の問題

第15回：保護者との連携・地域との連携

#### 評価

試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加度の評価（10%）とし、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】各障害の定義・特徴・支援の方法を調べる。

【事後学修】講義の内容をボランティアなどの体験を通して、現場で役に立つ視点でまとめる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

使用しません。

参考書・参考資料等

特別支援教育の理論と実践

金剛出版

- 「自閉症ガイドブック シリーズ1 乳幼児編」社団法人 日本自閉症協会
- 「自閉症ガイドブック シリーズ2 学齢期編」社団法人 日本自閉症協会
- 「自閉症ガイドブック シリーズ3 思春期編」社団法人 日本自閉症協会

科目名	学校関係法規特別講義		
担当教員名	川島 啓二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「専門科目」の「教育理論及び実践の応用に関する科目」であり、「選択科目となっている。

科目の概要

この科目は、1年次の「学校関係法規」の学修を踏まえている。

さらに、学校現場で実際に行われている学校管理・学校運営や教育指導等の実際の中で、どのような法律や規則が、どのように関わっているのかを、具体的な事例を通して追究していく。

学修目標 ( = 到達目標 )

- 1 学校教育は、多くの法律・規則等を基盤にして成り立っていること・運営されていることなどを、具体的に理解する。
- 2 学修を通して、学校教育に関して法規に基づいた自分の考えや意見を持ち、学校教育に対する自己の視野をさらに広げる。

内容

1	ガイダンス。 憲法・教育基本法及び教育関係法規等の関連について
2	教育の目的、義務教育の目標等に関する法規
3	児童生徒の就学等に関する法規
4	児童生徒の保健・安全等に関する法規
5	教育課程等に関する法規
6	学級編制等に関する法規
7	学校管理等に関する法規
8	学校運営等に関する法規
9	学校の組織・運営等に関する法規
10	教職員の身分等に関する法規。 教育行政等に関わる法規
11	教職員の服務等に関する法規
12	教員の研修等に関する法規
13	教員免許等に関わる法規
14	教員の勤務条件等に関わる法規
15	まとめ

評価

授業への参加度 ( 取り組み ) 20%、毎回の小まとめ・小テスト等 30%、筆記試験 50%

などにより総合的に評価するものとし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】 使用する『必携 学校小六法』を活用し、主要法規等に目を通しておくと共に、インデックスなどを付け、引きやすくなるようにしておく。
- 【事後学修】 授業で使用したノートや資料など、学修した法令などを再度見直す取り組みをする。授業で学修した内容に関連した事例問題や過去出題問題などに当たり解いてみる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 『必携 学校小六法』 杉原 誠四郎 監修 共同出版
- 【推薦書】 『図解・表解 教育法規』 坂田 仰・河内 祥子・黒川 雅子 共著 教育開発研究所
- 【参考図書】 『教育法規便覧』 窪田 眞二 小川 友次 著 学陽書房

科目名	学校関係法規特別講義		
担当教員名	黒瀬 任通		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「専門科目」の「教育理論及び実践の応用に関する科目」であり、「選択科目となっている。

#### 科目の概要

この科目は、1年次の「学校関係法規」の学修を踏まえている。

さらに、学校現場で実際に行われている学校管理・学校運営や教育指導等の実際の中で、どのような法律や規則が、どのように関わっているのかを、具体的な事例を通して追究していく。

#### 学修目標（＝到達目標）

- 1 学校教育は、多くの法律・規則等を基盤にして成り立っていること・運営されていることなどを、具体的に理解する。
- 2 学修を通して、学校教育に関して法規に基づいた自分の考えや意見を持ち、学校教育に対する自己の視野をさらに広げる。

#### 内容

1	ガイダンス。 憲法・教育基本法及び教育関係法規等の関連について
2	教育の目的、義務教育の目標等に関する法規
3	児童生徒の就学等に関する法規
4	児童生徒の保健・安全等に関する法規
5	教育課程等に関する法規
6	学級編制等に関する法規
7	学校管理等に関する法規
8	学校運営等に関する法規
9	学校の組織・運営等に関する法規
10	教職員の身分等に関する法規。 教育行政等に関わる法規
11	教職員の服務等に関する法規
12	教員の研修等に関する法規
13	教員免許等に関わる法規
14	教員の勤務条件等に関わる法規
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度（取り組み）20%、毎回の小まとめ・小テスト等30%、筆記試験50%

などにより総合的に評価するものとし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】 使用する『必携 学校小六法』を活用し、主要法規等に目を通しておくと共に、インデックスなどを付け、引きやすくなるようにしておく。
- 【事後学修】 授業で使用したノート・資料などや学修した法令などを、再度見直す取り組みをする。授業で学修した内容に関連した事例問題や過去出題問題などに当たり解いてみる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 『必携 学校小六法』 杉原 誠四郎 監修 共同出版
- 【推薦書】 『図解・表解 教育法規』 坂田 仰・河内 祥子・黒川 雅子 共著 教育開発研究所
- 【参考図書】 『教育法規便覧』 窪田 眞二 小川 友次 著 学陽書房

科目名	学校関係法規特別講義		
担当教員名	黒瀬 任通		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「専門科目」の「教育理論及び実践の応用に関する科目」であり、「選択科目となっている。

#### 科目の概要

この科目は、1年次の「学校関係法規」の学修を踏まえている。

さらに、学校現場で実際に行われている学校管理・学校運営や教育指導等の実際の中で、どのような法律や規則が、どのように関わっているのかを、具体的な事例を通して追究していく。

#### 学修目標（＝到達目標）

- 1 学校教育は、多くの法律・規則等を基盤にして成り立っていること・運営されていることなどを、具体的に理解する。
- 2 学修を通して、学校教育に関して法規に基づいた自分の考えや意見を持ち、学校教育に対する自己の視野をさらに広げる。

#### 内容

1	ガイダンス。 憲法・教育基本法及び教育関係法規等の関連について
2	教育の目的、義務教育の目標等に関する法規
3	児童生徒の就学等に関する法規
4	児童生徒の保健・安全等に関する法規
5	教育課程等に関する法規
6	学級編制等に関する法規
7	学校管理等に関する法規
8	学校運営等に関する法規
9	学校の組織・運営等に関する法規
10	教職員の身分等に関する法規。 教育行政等に関わる法規
11	教職員の服務等に関する法規
12	教員の研修等に関する法規
13	教員免許等に関わる法規
14	教員の勤務条件等に関わる法規
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度（取り組み）20%、毎回の小まとめ・小テスト等30%、筆記試験50%



などにより総合的に評価するものとし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】 使用する『必携 学校小六法』を活用し、主要法規等に目を通しておくと共に、インデックスなどを付け、引きやすくなるようにしておく。
- 【事後学修】 授業で使用したノート・資料などや学修した法令などを、再度見直す取り組みをする。授業で学修した内容に関連した事例問題や過去出題問題などに当たり解いてみる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 『必携 学校小六法』 杉原 誠四郎 監修 共同出版
- 【推薦書】 『図解・表解 教育法規』 坂田 仰・河内 祥子・黒川 雅子 共著 教育開発研究所
- 【参考図書】 『教育法規便覧』 窪田 眞二 小川 友次 著 学陽書房

科目名	表現活動概論		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

この科目は、教育職員免許法に定められた「科目又は教職に関する科目」の一つで、選択科目です。  
3年生を対象とし、これまでに「表現活動」を選択した学生も、まだ経験していない学生も歓迎します。

#### 科目の概要

朗読・歌・身体表現からなる作品に取り組みます。クラス内で総合表現の作品を創り上げるだけでなく、発表の機会を持つことと、部分的に他学年 ( 2年生 ) と混合での取り組みも目指します。表現活動を経験したことのある学生は、今度は指導する立場になったことをイメージしながら、さらに作品と表現を研究することができます。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

教師を目指す学生にとって「声」と「表現力」は大切です。

- ・全身を使って、豊かで表情のある声を自分の中から引き出すこと
- ・作品を味わい、イメージをふくらませていく過程を体験すること
- ・仲間と考えをぶつけ合い、磨き合う関係を築くこと
- ・練習を通して得たものを人に伝える喜びを知ること

これがこの講座の目標です。

内容	
1	作品と出会う
2	歌の練習を中心に1 脱力
3	朗読の練習を中心に1 呼吸法
4	重唱の練習を中心に1 ハーモニーの愉しみ
5	歌の練習を中心に2 作品解釈
6	朗読の練習を中心に2 声の表情・表現
7	重唱の練習を中心に2 互いに聴くこと
8	身体表現を考える1 身体の意識
9	身体表現を考える2 構成・他者との関わり
10	表現活動の指導法を考える1 言葉の重要性
11	表現活動の指導法を考える2 見ること・聴くこと
12	他学年との取り組み1 教師の表現力
13	他学年との取り組み2 共に学ぶ
14	発表
15	まとめ

#### 評価

教材解釈30点 / 表現力30点 / 発表と試験 ( レポート ) 40点を総合して評価し、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】身の回りの自然や、日頃接している人に関心を持ち、よく観察すること。

【事後学修】本を読み、音楽などの文化に触れる機会をできるだけ多く持つこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教材】教室で配布します。

【推薦書】斎藤喜博『授業』（国土社、新装版2006年）

竹内敏晴『声が生まれる 聞く力・話す力』（中公新書、2007年）

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』（教育出版、1990年）

その他必要に応じて日本地図、植物・動物・昆虫図鑑

科目名	表現活動（基礎）		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（斎藤喜博 / 詩、近藤幹雄 / 曲）「利根川」に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。また、夏に行われる免許状更新講習や新座市3年経験者教員研修会においても、発表する機会を持ちます。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

#### 内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

#### 評価

毎時間の取り組み（ 協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点 ）を総合して評価します。

## 授業外学習

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。特に腹式呼吸法の練習を毎日しましょう。

【事後学修】講義中の練習を踏まえて、歌唱や朗読の練習をします。振り返りのレポートを最後に作成します。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	表現活動（応用）		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品「かたくりの花」 横須賀薫・詩、梶山正人・曲 に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。表現活動概論（3年後期）の受講生がみなさんを指導する場面をつくります。先輩たちとともに、表現活動の指導法について学びあって欲しいと思います。

#### 内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

前期において「表現活動（基礎）」を受講した人がいた場合には、内容が変わります。

下記は一般的な内容です。実際には、参加メンバーに応じて変更します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

#### 評価

毎時間の取り組み（ 協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点 ）を総合し

て評価します。

#### 授業外学習

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。腹式呼吸法の練習を毎日します。

【事後学修】講義中の課題を踏まえて、更に朗読や歌唱表現の練習をします。最終発表会のあとで、振り返りのレポートを作成します。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	学習指導と学校図書館		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

司書教諭課程は「学校図書館」そのものについて学ぶ科目と、司書教諭として児童生徒に対する「指導法」を学ぶ科目に大別できる。本講は児童生徒の「メディア活用能力育成のための指導」の具体的な方法を学ぶ科目である。学習情報センターとしての学校図書館機能を発揮する上で、司書教諭5科目のうち最も中核的な科目である。

#### 科目の概要

学校図書館は児童生徒の日々の学習活動、および教員の教育活動を支援し推進するという重要な任務を持っている。学校図書館の積極的・効果的な利用を図る上で、児童生徒に対し、図書館および各種メディアを活用し、自主的な学習能力・態度を育成するための指導が必要である。そのための指導原理と方法を具体的に・実践的に体得し、あわせて教員に対する支援と協力についての理解を深める。

#### 学修目標

- 1) 学習活動における学校図書館の役割と機能を理解する。
- 2) 学校図書館の各種メディアの特性と活用の方法を体得する。
- 3) 指導内容の具体的な理解を図る。
- 4) 児童生徒の発達段階に応じた指導計画とその展開方法を理解する。
- 5) 教員の教育活動への支援方法を考える。

#### 内容

1	教育課程の展開と学校図書館の役割
2	主体的学習とメディア活用能力
3	メディア活用能力育成指導の内容と指導計画
4	指導内容の探索 ( 図書館での演習 )
5	指導内容の具体的検討
6	指導内容の確認と確定 ( 発表・討議 )
7	指導計画作成のための原理
8	指導内容の体系化 ( グループ討議 )
9	指導内容の体系化 ( 討議結果の発表 )
10	メディア活用能力育成指導の年間計画作成
11	メディア活用能力育成指導の方法
12	特定学年の1単位時間内での指導案作成
13	集団指導・個別指導の意義とその展開
14	メディア活用能力育成の個別指導と情報サービス
15	教員に対する支援と働きかけ



## 評価

課題についての調査および発表30%、メディア活用能力育成指導のための指導案作成40%、理解度確認のための論述レポート30%

## 授業外学習

【事前予習】毎回、授業に関する課題を指示する。次回までに、図書館を使って調査実習しまとめておくこと。授業時に発表および提出してもらう。

【事後学修】毎回、その日の授業のまとめ、考えを記すフィードバックシートの配布、または授業に関する課題を指示する。次回までに取り組み提出してもらう。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に必要に応じて資料・プリントを配布する。

科目名	学級経営と教科指導		
担当教員名	小城 正重		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

学級は、児童にとって所属することを拒否できない運命集団であり、一日の大半を過ごす場である。学級担任として、各々の児童が学校生活に展望が持てる指導のあり方を考察する。

学級経営の基盤は教科の指導においてない。現場の教師が作成した具体的な資料をもとに、学校現場に密着した実践的な考察をする。担任として、自信を持って児童や保護者に接することができるようにしていく。児童の身になり共感的に考え、共に生きようとする人間的な教員の姿を求める。

問題解決力を身につけ、多様化する子どもや保護者達に適切に対応できる力を育成する。

#### 内容

1	学校教育目標の実現を目指し学級指導目標実現のための具体的方策の立案。教育実習について
2	学級教育目標設定の手順の例。教育実習生として心掛けること、気をつけること
3	学級経営案の作成 ( 学級目標、学級経営方針、学級の実態把握 )
4	学級経営の計画 ( 教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導 )
5	学級経営の計画 ( 生徒指導、健康安全指導、教室環境づくり、家庭との連携 )
6	学級経営の計画 ( 学級事務の処理、学級経営の評価、参加したくなる授業参観・懇談会 )
7	各種表簿、観察を通じて、児童生徒の健全育成や学校生活の充実を図る。
8	学力の特徴や傾向、得意教科や不得意教科、つまずきなど実態の把握方法
9	教室の物的環境の整備と管理、毎日の生活や学習活動のよりよい環境構成
10	学習評価、諸表簿作成などの事務処理の実際
11	学級経営に関する保護者への通知、学級通信や懇談会等での連携の方法
12	学級の実態のとらえ方
13	学級集団の特性や傾向をつかむ ( さまざまな問題への対処の仕方 )
14	家庭および地域の様子の把握
15	振り返りとまとめ

#### 評価

提出物 ( 30% )、小テスト ( 30% )、試験 ( 30% )、学習態度・積極性・発言等 ( 10% ) によって総合的に評価する。

60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】指定した教科書を事前に読んでおくこと。

【事後学修】授業で学んだことを整理し、理解を深めておくこと。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】

著者名 小城 まさえ

書名 クラスづくり12か月

出版社名 学研

【推薦書】

なし

科目名	学級経営と教科指導		
担当教員名	狩野 浩二、鈿持 勉		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

小学校教員としての学級経営の在り方を追求する。

#### 科目の概要

学校現場で起きていることに「学級経営が成り立たない」「学級経営」をどのようにすすめてよいか分からない」「学級経営ができないことが学級崩壊につながっている」ということがある。また、教職を3年未満で辞めてしまうという状況もあり、そのほとんどが「学級経営ができない」ということに帰因している。

本講座では、さまざまな場面にどのような対応をすればよいのか、学生のみなさんの指導観、経営感を磨くことで、学級経営の在り方を考え、このことを基本として教科教育があるということを実感してほしい。

#### 学修目標

本講座をとおして学級経営として身につけておくべきことを理解して、さまざまな場面での対応力を習得する。

## 内容

学級経営力を高め、さまざまな場面での対応力を身につけるとともに、指導観、経営観を磨くものである。

- 第1回 子どもと向き合う学級経営とは
- 第2回 子どもと向き合う学級経営とは
- 第3回 「名前」の呼び方
- 第4回 「座席」の決め方
- 第5回 「いじめ」の対応
- 第6回 「物がなくなったとき」の対応
- 第7回 保護者対応
- 第8回 保護者対応
- 第9回 言語活動を機能させる教科教育とは
- 第10回 生徒指導の基本的な考え方
- 第11回 学級経営案の作成
- 第12回 学級だよりの作成
- 第13回 校務運営としての進行管理と優先順位の考え方
- 第14回 学級担任としての1日
- 第15回 指導観、経営感を磨く

## 評価

日常の参画状況（40%）、提出物（30%）、小論文（30%）を総合して60点以上を合格とする。

## 授業外学習

#### 事前学修

講義中に配付する資料を読み、概要をまとめ、自己の課題を析出する。

#### 事後学修

講義中に紹介された文献や新聞、雑誌を読み、概要をノートに整理する。自己の課題を追究する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### テキスト

釘持勉『若手教員がひやっとした！80場面のトラブル解決術』（明治図書出版）

##### 推薦書・参考書

講義中において、指示します。

科目名	教職基礎演習		
担当教員名	高橋 京子、増田 吉史、綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

小学校教員に求められる多様な能力の必要性を模擬指導体験から理解し、学校ボランティアを通しその実際の様子を知る。

##### 科目の概要

学校行事（運動会）や特別活動（社会貢献活動）について、教育における位置づけを理解し、企画・運営する模擬体験を通して、指導者としての教員が多様な能力求められることを理解し、必要な能力の向上を図る。

##### 学修目標（=到達目標）

小学校教員に求められる能力の多様性を理解し、演習を通し、コミュニケーション能力、統率力、組織貢献力など教員に求められる基本的な力を向上させる。

#### 内容

前期は、模擬指導体験として学校行事（運動会）を取り上げ、学校行事の意味、それを指導する教員の仕事への理解を深める。後期は、模擬指導体験として特別活動（社会貢献）、キャリア教育を取り上げ、特別活動、キャリア教育の意味、それを指導する教員の仕事への理解を深める。

1	学校の基本を学ぶ（学校の1年間）
2	学校の基本を学ぶ（学校の組織）
3	学校の基本を学ぶ（教員の仕事）
4	学校教育における学校行事の位置づけを学ぶ
5	学校ボランティア（前期の活動計画の作成）
6	地域貢献活動（サツマイモの植えつけ）
7	学校行事（運動会）の企画
8	学校行事（運動会）の企画
9	学校行事（運動会）の準備
10	学校行事（運動会）の準備
11	学校行事（運動会）の準備
12	運動会の模擬指導体験
13	学校行事（運動会）の振り返り
14	学校ボランティア（夏季の活動計画の作成）
15	まとめ

#### 評価

毎時間の学習票の作成（20点）、計画書の作成や模擬指導の実施（40点）、まとめのレポートの作成（40点）とし、

総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容の前提となる事項を確認し、関連する資料に目を通し、レディネスを高める。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「学習指導要領」「小学校学習指導要領解説 特別活動編」「小学校キャリア教育の手引き」（教育出版）

【推薦書】「キャリア教育のススメ」（東京書籍）、「キャリア教育体験活動事例集」（実業之日本社）

【参考図書】「運動会の準備から本番まで」（小学館）等、随時紹介する）

科目名	教職発展演習		
担当教員名	山本 悟、津吹 卓、狩野 浩二、増田 吉史 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

##### 科目の性格

小学校教育の現状や課題を把握し、教育に対する考えを深める。体験活動については、集団宿泊行事の模擬指導を通して、学校教育における実践的な資質、能力、知識、方法論を理解する。

##### 科目の概要

講義を受けるとともに、主体的に事例を調べ発表し合う中で、理解を深め表現力を高める。前期を集中授業の扱いとして、集団宿泊行事における体験活動を実施して体験学習の進め方や配慮事項を学ぶ。後期は教職に関する現実的な課題を中心に学習指導や子どもとの接し方などについて、学校ボランティア活動の実践をもとにバスセッション等を通して、理解を深める。

##### 学修目標（＝到達目標）

次の3点を授業のめあてとする。

- ・ 宿泊を伴う校外学習の進め方、配慮事項を体験的に学び、基礎基本を修得する。
- ・ 学習活動や子どもとの接し方に関する諸問題に関心を持ち、その現状を調べて教職に関する自分なり の考えを整理する。
- ・ バスセッション等を用いた討論の進め方を身につけ、自分の意見を発表できるようになる。

#### 内容

##### 前 期

- 1 回目 オリエンテーション。年間活動計画と自然体験活動の内容の確認。  
 ～ 学校ボランティア活動のガイダンス説明（1～3年生合同） : 担当者全員
- 2 回目 集団宿泊的行事の位置づけ、指導方法、生活指導、安全管理等を調べる。 : 山本
- 3 回目 集団宿泊的行事の進め方の確認、班編成 : 山本
- 4～6 回目 集団宿泊的行事の計画書作成 : 山本
- 7 回目 集団宿泊的行事の事前指導（しおりをもとに発表活動） : 山本
- 8～15 回目 : 担当者全員

現地（長野県）での体験活動と模擬指導（9月2～4日実施予定）

- ・ 宿泊を伴う行事の運営と安全管理、生活指導と健康管理
- ・ 体験活動：登山、ハイキング、野外炊事、キャンプファイアー等
- ・ 移動の交通機関での安全管理

##### 後 期 : 毎回、担当者全員で授業を企画・運営する

- 1～2 回目 集団宿泊的行事の実践報告、まとめ
- 3 回目 学校ボランティア活動の報告会（1～3年生合同）



#### 4～14回目

学習指導要領および学校ボランティア活動の実践より課題を設定し、バズセッション等による討議や意見交換を通して、教職に関わる基本的な知識や技能の理解を深める。

- ・学級経営や学級活動に関する基礎基本の理解
- ・総合的学習の時間、外国語活動、食育等の理解

#### 15回目 まとめ（学校ボランティア活動の最終報告会：1～3年生合同）

### 評価

集団宿泊行事の計画書作成や模擬指導および発表活動（50点）、まとめのレポートまたは試験（50点）によって総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。集団宿泊的行事の計画書作成、プレゼン活動の準備と発表資料作成。

【事後学修】授業で紹介した推薦書、参考図書の自主的講読。

### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「小学校学習指導要領」（平成20年度版）

文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成20年度版）

【推薦書】【参考図書】授業の中で適宜、紹介する。

科目名	教職応用演習		
担当教員名	宮川 保之、岡上 直子、綾井 桜子、増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

教育職員免許法に基づき、児童教育学科の専門科目」の内「教育の理論及び実践の応用に関する科目」として開設されます。

#### 科目の概要

即戦力として活躍できる教員となるために、4年生で行う「教育応用実習」の前に、これからの社会で求められる人材像を踏まえた学校教育を展開する方途や、学校における諸課題への的確な対応について学修する。また、教員として社会からの尊敬・信頼を受け、幼児・児童の思考力・判断力や表現力等を育成する実践的指導力を身に付ける。さらに、困難な課題に同僚と協働し、地域と連携して対応する実践的な指導力を身に付ける。このため、教育の最新事情や教育仮題の解決を意図した演習を行い、各自が指導観や教育観を明確にしていく。

#### 学修目標 (= 到達目標)

\* 教科指導、生徒指導、学級経営等の職務を的確に実践できる力を身に付ける。\* 学力向上、豊かな心を育成するための応用力を身に付ける。\* いじめ・暴力行為・不登校等生徒指導上の諸課題を早期に把握し、警察等の関係機関と連携するなどして、的確に対応できる指導力を身に付ける。\* 自分の考えを文章や言葉などで表現したり、他者と巧くコミュニケーションしたりできる表現力等を高める。

#### 内容

学校ボランティアの円滑な実施と省察を行うために、第2回目と第13回目に、1から3年生まで合同で学習指導指導補助等の計画立案とその確認や省察を行う。他の回においては、下記回毎の教育課題の背景や解決策を見出す作業を行う。その際には、学校体験によって得た知識や技能を活かし、学習指導や生徒指導の人選的な指導力を高める演習(問題解決討議や事例研究)を行う。

1	学級経営の実際(学級集団の形成、規範意識の醸成、学級の組織と役割意識の向上)
2	インターンシップ・学校ボランティアの計画(後期分)立案と省察
3	学級経営上の課題とその解決(日常生活や学習への適応、健康・安全意識の向上)
4	特別な支援を必要とする幼児・児童の理解と配慮の実際(個別の教育支援計画)
5	学校問題の事例とその解決方策(学校・教員への信頼と教育効果を高める方策)
6	豊かな人間関係の育成と個性や社会的資質を高める教育活動例(生活習慣の確立)
7	社会の一員としての意識や行動力を高める指導例(規範意識の向上)
8	非社会的な問題行動の未然防止と課題解決の実際(不登校、引きこもり等の予防と対応)
9	反社会的な問題行動の未然防止と課題解決への取組み例(いじめ、暴力等の予防と対処)
10	災害安全・生活安全・交通安全に係る教育活動とその実際(防災教育や犯罪被害防止等の対策)
11	心身の健康の保持増進と体力向上に係る諸課題の解決策(運動・スポーツと学校体育の課題)
12	教員・学校への信頼と尊敬の念を高める教員の取組み(適正は服務と事故防止策)
13	インターンシップ・学校ボランティアの取組みと省察、次年度に繋げるための方策の検討
14	教育課程の編成実施と学校種間の連携と協力の在り方、取組み方(小中一貫校の成果)

## 評価

回毎での事例研究等の成果をもとに作成する小論文（50点）。最終試験（50点）を総合して、単位認定する。

## 授業外学習

【事前予習】各課題に関する資料やテキストを元に、事例研究の準備を行う。

【事後学修】事例研究と成果に対するコメントを元に、教育課題を解決していく方策を整理し、実践的な指導力を高めていく。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「小学校学習指導要領」（平成20年3月文部科学省告示）。中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」（平成24年8月28日）。回毎に資料を提示するので、これらを活用する。

【推薦書】特になし

【参考図書】渡部邦雄著「活動指導法：実践的指導力をはぐくむ」日本文教出版

科目名	介護等体験事前事後指導		
担当教員名	狩野 浩二、岩井 雄一、佐藤 陽、津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

義務教育学校（小学校・中学校）の教員になるために必要となる「介護等体験」について、事前指導と事後指導を行う科目です。集中欄で登録し、4月～5月にかけての時期に昼休みや5時限目などを活用して指導します。

介護等体験で体験する「福祉施設体験5日間」と、「特別支援学校体験2日間」について、先輩たちが経験した話を聞いたり、福祉の専門性、障害児教育の専門性について、各専門の先生方から話を聞いたりし、介護等体験が実り多いものになるよう勉強します。

高齢者福祉や児童福祉、障害者福祉など、さまざまな福祉施設での体験を通して、福祉の心を養います。また、特別支援学校での体験を通して、肢体不自由児、知的障害児、視覚障害児の他、重複障害児など、心身に障害のある子どもたちについての理解を深めます。

#### 内容

以下の内容を学習します。

- 事前指導、社会福祉施設及び、特別支援学校についての学修
- 介護等体験（福祉施設5日間、特別支援学校2日間）7日間
- 事後指導、体験ノートの執筆と提出

それぞれ、4月のガイダンスにおいて講義日程、体験機関、体験場所等について説明します。

教職支援課（教職課程センター）の掲示等をよくみておいてください。

#### 評価

事前事後指導における受講態度（2割）、体験への参加（3割）、事後報告書の内容（5割）を総合して、60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

- 【事前予習】テキストを読み、概要を理解するとともに、疑問点を事前指導中に解決します。
- 【事後学修】体験終了後に、振り返りのレポートを作成し、教職支援課に提出します。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

次のテキストを使用します。各自購入し、事前指導に参加してください。

増田雅暢 執筆代表 浦野正男・櫛田匠・磯彰格・森好明 著『第2版よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会 出版部

全国特別支援学校長会編著『介護等体験ガイドブック フィリア [新学習指導要領版]』ジース教育新社

科目名	外国語活動		
担当教員名	島田 美織		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

The aim of this course is to give students a general introduction to teaching English to young children in Japan. Students will acquire basic vocabulary, skills to create materials and design lessons, and the way to introduce English words/phrases to young learners of English.

#### 内容

The students will work with textbooks and other materials which have been used successfully in Japan to develop the speaking, listening and pre-writing skills in English. Fun and easy-to-use activities, such as games and songs to teach the skills will be introduced and practiced, as well as basic classroom English to develop teacher confidence. The course will be taught in English and limited to "20 students" at the most.

( 休まず授業に出られる学生、最大定員 20名 )

Week 1	Greeting the classroom ready (Lesson 1)
Week 2	Greeting learners (Lesson 2)
Week 3	Planning lessons (Lesson 3)
Week 4	Using teaching aids (Lesson 4)
Week 5	Teaching listening (Lesson 5)
Week 6	Leading pronunciation practice (Lesson 7)
Week 7	Facilitating speaking (Lesson 8)
Week 8	Introducing vocabulary (Lesson 9)
Week 9	Beginning reading (Lesson 10)
Week 10	Presenting a story-reading lesson (Lesson 11)
Week 11	Review
Week 12	Preparation for group presentations
Week 13	Rehearsal
Week 14 & 15	Group presentations

#### 評価

Evaluation will be based on participation (30%), homework assignments (20%) and final presentation (50%). Excellent attendance is required. Tardiness three times will equal an absence.

## 授業外学習

【事前予習】Worksheets, essay, prepararion for demo-lessons

【事後学修】Vocabulary review, reading the passage of each unit

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

Teaching English to Young Learners (Compass publishing)

科目名	外国語活動		
担当教員名	島田 美織		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

The aim of this course is to give students a general introduction to teaching English to young children in Japan. Students will acquire basic vocabulary, skills to create materials and design lessons, and the way to introduce English words/phrases to young learners of English.

#### 内容

The students will work with textbooks and other materials which have been used successfully in Japan to develop the speaking, listening and pre-writing skills in English. Fun and easy-to-use activities, such as games and songs to teach the skills will be introduced and practiced, as well as basic classroom English to develop teacher confidence. The course will be taught in English and limited to "20 students" at the most.

( 休まず授業に出られる学生、最大定員 20名 )

Week 1	Greeting the classroom ready (Lesson 1)
Week 2	Greeting learners (Lesson 2)
Week 3	Planning lessons (Lesson 3)
Week 4	Using teaching aids (Lesson 4)
Week 5	Teaching listening (Lesson 5)
Week 6	Leading pronunciation practice (Lesson 7)
Week 7	Facilitating speaking (Lesson 8)
Week 8	Introducing vocabulary (Lesson 9)
Week 9	Beginning reading (Lesson 10)
Week 10	Presenting a story-reading lesson (Lesson 11)
Week 11	Review
Week 12	Preparation for group presentations
Week 13	Rehearsal
Week 14 & 15	Group presentations

#### 評価

Evaluation will be based on participation (30%), homework assignments (20%) and final presentation (50%). Excellent attendance is required. Tardiness three times will equal an absence.

## 授業外学習

【事前予習】 Worksheets, essay, preparation for demo-lessons

【事後学修】 Vocabulary review, reading the passage of each unit

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

Teaching English to Young Learners (Compass publishing)



科目名	学芸総合演習		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

21世紀を迎えて、教育環境の変化、特に情報通信ネットワーク、デジタル機器などマルチメディアの発達と普及は目覚ましく、教育現場におけるメディア環境を一変させようとしている。この変化は、単に新しいメディアが視聴覚教育に加わるというものではなく、メディアの役割のみならず、教育そのものの変革を迫っている。メディアの発達は、教育に強い影響を及ぼすのみならず、新たな教育課題を発生させる。その最大の課題は、これまで学校、家庭、社会といった子どもの実体験的空間の中で考えられてきた教育についての考え方の修正である。教師として、メディアそのものの理解を求めるメディア・リテラシーの習得が必要不可欠である。

ICTを利用して問題解決できるようになること。メディア・リテラシーを身につけること。

#### 内容

1	情報とは何か ( 情報研究の歴史 )
2	情報概念 ( 情報の5つの特性 )
3	コミュニケーションと教育メディア ( 文字・ことば・文章、情報のデジタル化 )
4	情報化の進展と情報教育
5	情報教育の考え方 ( 学校教育における位置づけ )
6	情報教育の目標 ( 3本柱 )
7	小学校の各教科における情報教育
8	学校教育における視聴覚メディアの活用
9	インターネットとマルチメディアの教育利用
10	メディア・リテラシーとは
11	子どもの学習活動と情報教育の実践 ( ICT活用能力 )
12	情報モラルと情報セキュリティ
13	課題作成 ( プレゼンテーション教材 )
14	課題作成 ( プレゼンテーション教材 )
15	まとめ

#### 評価

授業中に行う課題に対する評価 ( 30% )、課題レポートに対する評価 ( 30% )、テスト ( 30% )、授業への参加度 ( 10% ) を総合して評価し、60%以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】文部科学省「教育の情報化に関する手引き」をダウンロードして読んでおくこと

【事後学修】教員のICT活用指導力のチェックリスト ( 小学校版 ) をチェックすること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず。毎回の授業において、印刷資料を配布する。

科目名	学芸総合演習		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

人間は自然環境に適応すると共に、自然環境に働きかけて新たな環境を創り出す。この人間の営みを、自然との対比で「文化」と呼ぶ。さて人間は、子どもと共に生きることに深い喜びを感じ、長い歴史の中で「子どもの文化」を築き上げてきた。子どもは、文化という土壌の上に生み落とされ、成長を遂げてゆく。とはいえ、子どもも文化の作り手、伝え手ともなりうる。「児童文化」においては、子どもと大人が共に織りなす政の営みという視点から、生を共有する仲間が共に創造した文化について探求することを目指す。

#### 内容

- 第1回 児童文化とは何か
- 第2回 子どもの成育儀礼にみる子育ての文化
- 第3回 年中行事と子どもの生活
- 第4回 子どもの伝承遊び
- 第5回 子どもの衣服・食事・部屋
- 第6回 情報化社会と子ども
- 第7回 伝統玩具（人形も含める）と子ども
- 第8回 教育玩具、キャラクター玩具
- 第9回 遊具、公園、遊園地
- 第10回 わらべ唄、唱歌、童謡
- 第11回 おはなしの歴史的変遷（昔話、口演童話、ストーリー・テリングなど）
- 第12回 紙芝居の世界
- 第13回 人形劇、ペープサート、パネルシアターなど
- 第14回 絵本の世界
- 第15回 幼年文学の世界

#### 評価

授業への取り組み方20%、試験80%によって評価する。

#### 授業外学習

- 【事前予習】教科書をあらかじめ読んでくこと。
- 【事後学修】人形劇、児童劇、児童図書館など、各自の関心に応じて児童文化施設を訪ねてみるここと。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】『児童文化 子どものはあわせを考える学びの森』 皆川美恵子他著 ななみ書房

科目名	学芸総合演習		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目は児童教育学科専門科目における、教育の理論および実践の応用に関する科目の一つです。1年次必修の教育学概論の履修後、教育の理論について理解を深めるための科目です。

欧米を中心とした教育の歴史（近代以降）について、教育の基礎理論とこれをうみだした教育家を対応させながら扱います。本科目で扱う内容は、いずれも教職教養のなかで重要な位置づけを与えられてきたものです。

近代から現代に至るまで、教育の前提となってきた基本的な考え方について知り、理解することを目標とします。

内容	
1	近代教育を歴史的にみる
2	印刷術の発明と教科書の誕生 コメニウス『世界図絵』
3	あらゆる人にあらゆることを教える コメニウス『大教授学』
4	習慣形成と教育 ロック『教育論』
5	近代的子ども観の誕生と教育 ルソー『エミール』
6	人間の教育 ルソー『エミール』
7	ペスタロッチと「メトーデ」
8	学校教育と教授 ヘルバルト
9	新教育の実践と「児童中心主義」
10	デューイ・スクールの実践 『学校と社会』
11	経験としての教育
12	「方法的社会化」としての教育
13	教育と学習
14	課題発表
15	課題発表

#### 評価

レポート60点、授業への取り組み20点、課題発表20点の合計100点とし、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】次週に扱う箇所の基本的な用語、概念（授業時に指示）について、教育学関連の事典等で調べておく。

【事後学修】教職教養の基本用語について復習を行い、教育学上、著名な人物や考え方などを関連づけ、説明できるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】授業時に指示します。

【推薦書】関川悦雄・北野秋男『教育思想のルーツを求めて』啓明出版、2003年

今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009年

【参考図書】『教育思想事典』勁草書房、2000年 ほか授業時に紹介します。

科目名	学芸総合演習		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

本科目は教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

児童は理科が大好きである。しかし現場の教師に理科実験を敬遠する傾向が見られる。そこで、身近な道具を使って子どもたちでもできる実験を工夫・開発し、実際に体験することを通して、理科の楽しさを実感することをねらいとする。

理科の4分野（物理，化学，生物学，地学）に関して，小学校理科で扱う内容に限定せず，理論的な裏づけや根拠を理解するということより，楽しいと思われるテーマに取り組んでみる。

#### 内容

1	リニアモーターカーを教室に走らせよう（電流の働きを調べる）
2	動くおもちゃを工夫しよう。（おもりの働き）
3	ペットボトルで水ロケットを作ろう
4	音や光の実験箱（物に光を当てたり，物で音を出したりしてみよう）
5	焚き火の名人（原始人の火おこし術から，木がよく燃える仕組みを考えよう）
6	物の溶け方（きれいな結晶を作ろう）
7	空気鉄砲や水鉄砲を作ってみよう
8	ガラスビーズで顕微鏡を作ろう（身近な微生物）
9	魚の食べ物の通り道を調べよう
10	植物や動物の育ち方（継続観察）
11	波の伝わり方（縦波、横波）
12	高いビルほど激しく揺れて危険だ
13	川はどうして蛇行するのか（大地のつくりとでき方）
14	星の動きを確かめよう（手作りプラネタリウム）
15	まとめ

#### 評価

毎回の課題に対する提出されたレポート（60%）、授業参加意欲・授業態度（20%）、最終レポート（20%）などから、総合的に評価する。

#### 授業外学習

【事前予習】演習科目なので特に予習を必要としない

【事後学修】演習したことから、身の回りの事象に注意を向けて観察すること

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】資料を適宜配布する

科目名	学芸総合演習		
担当教員名	劔持 勉		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

教師としての板書力を身につけ、自信を持って児童の前に立つ。

#### 科目の概要

小学校教員を目指している学生にとって教壇に立って戸惑うことに「板書ができない」「雑字で児童の前で自信をもって書けない」「高学年からの速く書くことはもっと不安」という声がある。一方、教育実習先の言われることに「板書の字を丁寧に」「書き順を間違えないで」「もう少し大学で学んできてほしい」という声が圧倒的に多い。

この声に応えるための板書力を高める演習として設定して、教育実習、学校現場での対応が適切にできることを目標とする。自己の板書力を点検して、児童の前で「板書のきれいな先生」を目指してもらいたい。また、演習をとおして自己の力量が上がったことを実感してほしい。

#### 学修目標

本演習をとおして学生は自己の板書力を向上させて、「書くこと」への苦手意識を払拭するとともに、学校現場が求めている板書力を確実に習得する。

## 内容

実際に板書をとおして自己点検をするとともに、板書力向上を目指すものである。

- 第1回 板書の機能とウォーミングアップ
- 第2回 チョークの持ち方、教師としての立つ位置及び実際
- 第3回 始筆の入れ方、横画、はらいをどう書くか
- 第4回 文字として次の点画を意識して書く
- 第5回 筆順を正しく書く（縦画と横画が接する場合など）
- 第6回 筆順を正しく書く（横画とはらいの関係など）
- 第7回 点画を強調して書く
- 第8回 「しんにょう」を書く
- 第9回 「ぼくにょう」を書く
- 第10回 曲がらないで書く
- 第11回 速く書く
- 第12回 速く書く
- 第13回 板書の機能を最大限生かして書く
- 第14回 ひらがなを書く
- 第15回 小学校学年別配当漢字を書く

## 評価

日常の参画意識及び板書の実際（40％）、提出物（30％）、小論文（30％）を総合し、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

事前学修 教科用図書をノートに筆写するなどし、文字を丁寧に美しく書く練習をする。インターンシップ（ボランティア）等で参観する学級の板書を視写するなどし、板書の工夫について学修する。

事後学修 講義中に学修した課題を自ら練習し、板書に習熟する。インターンシップ等の場で、板書の機会をつくる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### テキスト

釘持勉『プロの板書』教育出版

##### 参考図書、推薦書

教室にて指示します。



科目名	学芸総合演習		
担当教員名	劔持 勉		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

教師としての板書力を身につけ、自信を持って児童の前に立つ。

#### 科目の概要

小学校教員を目指している学生にとって教壇に立って戸惑うことに「板書ができない」「雑字で児童の前で自信をもって書けない」「高学年からの速く書くことはもっと不安」という声がある。一方、教育実習先の言われることに「板書の字を丁寧に」「書き順を間違えないで」「もう少し大学で学んできてほしい」という声が圧倒的に多い。

この声に応えるための板書力を高める演習として設定して、教育実習、学校現場での対応が適切にできることを目標とする。自己の板書力を点検して、児童の前で「板書のきれいな先生」を目指してもらいたい。また、演習をとおして自己の力量が上がったことを実感してほしい。

#### 学修目標

本演習をとおして学生は自己の板書力を向上させて、「書くこと」への苦手意識を払拭するとともに、学校現場が求めている板書力を確実に習得する。

## 内容

実際に板書をとおして自己点検をするとともに、板書力向上を目指すものである。

- 第1回 板書の機能とウォーミングアップ
- 第2回 チョークの持ち方、教師としての立つ位置及び実際
- 第3回 始筆の入れ方、横画、はらいをどう書くか
- 第4回 文字として次の点画を意識して書く
- 第5回 筆順を正しく書く（縦画と横画が接する場合など）
- 第6回 筆順を正しく書く（横画とはらいの関係など）
- 第7回 点画を強調して書く
- 第8回 「しんによう」を書く
- 第9回 「ぼくによう」を書く
- 第10回 曲がらないで書く
- 第11回 速く書く
- 第12回 速く書く
- 第13回 板書の機能を最大限生かして書く
- 第14回 ひらがなを書く
- 第15回 小学校学年別配当漢字を書く

## 評価

日常の参画意識及び板書の実際（40％）、提出物（30％）、小論文（30％）を総合し、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

事前学修 教科用図書をノートに筆写するなどし、文字を丁寧に美しく書く練習をする。インターンシップ（ボランティア）等で参観する学級の板書を視写するなどし、板書の工夫について学修する。

事後学修 講義中に学修した課題を自ら練習し、板書に習熟する。インターンシップ等の場で、板書の機会をつくる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### テキスト

釘持勉『プロの板書』教育出版

##### 参考図書、推薦書

教室にて指示します。

科目名	教育学特別講義		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

小学校における書写指導は国語科に位置付けられ、学習指導要領国語科の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の中の「書写に関する事項」に指導事項が記載されている。そのため、国語・初等国語科教育・教材研究 ( 国語科 ) など他の履修科目における書くことの指導と関連する。

#### 科目の概要

小学校の書写指導 ( 1 年・3 年・5 年 ) の在り方を中心に教材研究をし、硬筆書写の入門期 ( 鉛筆の持ち方・平仮名の書き方等 ) の指導の在り方、毛筆書写の入門期 ( 筆・文鎮等の道具の扱い方 ) の指導の在り方、その他の学年における指導の在り方 ( 筆づかい・字配り等 ) を実技を含めて学び、小学校現場における書写指導に直接役立たせるものである。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

小学校書写指導の目標 ( 各学年における書写に関する事項 ) を意識し、実技を通して学修する。

小学校書写指導における実践的指導技能を身につける。

小学校書写指導の基礎基本 ( 硬筆と毛筆の関連・筆順の重要性・点画接し方や交わり方・配列等 ) の理解を深める。

内容	
1	小学校書写指導のねらいとその指導について
2	入門期 ( 小学校 1 年 ) の硬筆指導の在り方 ( 実技含む )
3	硬筆 - 平仮名の書き方とその指導 ( 実技含む )
4	硬筆 - 平仮名の書き方とその指導 ( 実技含む )
5	硬筆 - 漢字の書き方とその指導 ( 筆順指導の在り方 ) ( 実技含む )
6	入門期の毛筆指導の在り方 ( 準備、片付けの仕方、評価の仕方 )
7	毛筆 - 起筆・終筆・横画・縦画を中心とした指導 ( 実技含む )
8	毛筆 - はらい・はねを中心とした指導 ( 実技含む )
9	毛筆 - 折れ・曲がりを中心とした指導 ( 実技含む )
10	毛筆 - 文字の組み立て方を中心とした指導 ( 実技含む )
11	毛筆 - 文字の組み立て方を中心とした指導 ( 実技含む )
12	毛筆 - 字配りを中心とした指導 ( 実技含む )
13	硬筆 - 字配りを中心とした指導 ( 実技含む )
14	小学校書写指導案の作成の仕方
15	まとめ ( 小学校書写指導の在り方のまとめ )

評価

ミニレポート 20 %、毎回の書写実技 ( 硬筆・毛筆 ) 60 %、最終レポート 20 % とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】硬筆用筆記具・毛筆書写用具の手入れと準備

【事後学修】授業ごとに行う小学校学年配当漢字（1006字）の筆順

点画（横画・縦画・左払い・右払い・折れ・曲がり・そり・点）等、毛筆による学習を 生かす硬筆による文字練習

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文科省検定済教科書 光村図書 1年教科書・3年教科書・5年教科書

小学校学習指導要領解説 国語科（文科省）東洋館出版

【推薦書】

【参考図書】

科目名	<b>教育学特別講義</b>		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

子どもという存在は、日本の伝統的社会においては、多くの人々による関わり合いや見守りの中で成育するものと考えられていた。家庭の中で抱え込むのではなく、社会の中でこそ育つ公的な存在だったのである。よって子どもを育てるには、可愛がるだけでなく「躰」が重要視されたり、家族以外の他者の手、知恵、力添えも必要だと考えられてきた。

かつての日本人が、どのように子どもの社会化を促してきたのか。子どもを家庭から社会へと目を向かわせる文化のしくみについて講義していく。

#### 内容

- 第1回 プロローグ 子どもと社会の関係性
- 第2回 大人になるための多様な文化の仕掛け
- 第3回 児童文化からみた仕掛けの多様性
- 第4回 地獄・極楽の絵解きに見る教育
- 第5回 討論
- 第6回 双六遊びにみる人生教育
- 第7回 ことわざ、カルタによる躰
- 第8回 格言、寸言、箴言、かぞえ歌・いろは歌などによる躰
- 第9回 討論
- 第10回 躰の絵本の系譜について
- 第11回 おばけの話
- 第12回 赤ちゃん絵本に見る躰
- 第13回 幼年絵本に見る躰
- 第14回 討論
- 第15回 エピローグ 個人と社会の結び結び方について

#### 評価

授業中の発表20%、レポート80パーセントによって成績をつける。

#### 授業外学習

- 【事前予習】毎回、次回の予習課題を提示するので、調べてくること。
- 【事後学修】3回の講義ごとに討論を行なう。討論後には、レポートを提出すること。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

授業のなかで、適宜、推薦書を明示する。

科目名	教育学特別講義		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

これからの小学校普通教室には、構内ネットワーク ( LAN ) が敷設され2台のPCと1台のプロジェクタが配備されるだろう。さらに黒板の横に電子情報ボードが置かれるかもしれない。これらのITを活用して子どもたちに「分かる授業」をやり、学力を伸ばすことが求められている。そこで、本演習ではITをどの教科でもどの授業でも活用して「分かる授業」ができるIT活用授業マイスターを養成することをねらいとする。

ICTを活用できるようになること、ICTを活用して「分かる授業」を実施できる能力を身につける。ICTを活用した教材を作成できるようになること。

#### 内容

1	これからの教員、これからのIT活用授業
2	IT活用授業の特徴、IT活用と学力
3	普通教室でのIT活用のための準備
4	実践しやすさから見たIT活用授業
5	ものを写して動きや操作を教える授業の設計
6	教科書の写真を大写して吟味する授業の設計
7	デジタルカメラを教材提示装置に利用した授業
8	パワーポイントで教材作成
9	理科実験室で効果的なIT活用をした授業の設計
10	電子情報ボードでデジタルコンテンツを活用した授業
11	創造的な図工授業を実現するIT活用授業の設計
12	低学年でもできるデジタルカメラとテレビを用いたプレゼンテーション学習
13	校内学習センターや公立教育センターによるコンテンツ利用の授業設計
14	IT活用スキルのチェックリスト
15	まとめ

#### 評価

授業中に行う課題に対する評価 ( 30% )、継続観察レポートに対する評価 ( 30% )、テスト ( 30% )、授業への参加度 ( 10% ) を総合して評価し、60%以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】文部科学省ホームページから「教育情報化に関する手引き」の最新版をダウンロードしてよむこと

【事後学修】毎時間の課題に挑戦すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず。毎回の授業において、印刷資料を配布する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 ( 4 年次 ) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 ( ゼミ ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

##### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

##### 学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

#### 内容

演習 ( ゼミ ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

#### 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 ( 60 点 )、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 ( 40 点 ) という配点で総合的に判断する。

#### 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1 時間程度の準備が必要である。後期には、各自の



テーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

##### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

##### 学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

#### 内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

#### 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点で総合的に判断する。

#### 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自の

テーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 ( 4 年次 ) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 ( ゼミ ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

##### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

##### 学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

#### 内容

演習 ( ゼミ ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

#### 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 ( 60 点 )、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 ( 40 点 ) という配点で総合的に判断する。

#### 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1 時間程度の準備が必要である。後期には、各自の

テーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 ( 4年次 ) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習 ( ゼミ ) は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

##### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

##### 学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

#### 内容

演習 ( ゼミ ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

#### 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 ( 60点 )、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 ( 40点 ) という配点で総合的に判断する。

#### 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自の

テーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

##### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

##### 学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

#### 内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

#### 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点で総合的に判断する。

#### 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自の



テーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 ( 4 年次 ) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 ( ゼミ ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

##### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

##### 学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

#### 内容

演習 ( ゼミ ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

#### 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 ( 60 点 )、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 ( 40 点 ) という配点で総合的に判断する。

#### 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1 時間程度の準備が必要である。後期には、各自の

テーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 ( 4 年次 ) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 ( ゼミ ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

##### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

##### 学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

#### 内容

演習 ( ゼミ ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

#### 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 ( 60 点 )、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 ( 40 点 ) という配点で総合的に判断する。

#### 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1 時間程度の準備が必要である。後期には、各自の

テーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 ( 4 年次 ) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 ( ゼミ ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

##### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

##### 学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

#### 内容

演習 ( ゼミ ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

#### 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 ( 60 点 )、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 ( 40 点 ) という配点で総合的に判断する。

#### 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1 時間程度の準備が必要である。後期には、各自の

テーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

##### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

##### 学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

#### 内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

#### 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点で総合的に判断する。

#### 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自の



テーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。

他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り 組み進める。

9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に震度の目安を持って進めて いく。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、震度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、薦める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。その過程では、発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。

後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かしながら、研究をまとめるために必要な情報収集、 調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等 )
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中のづ表の作成及び論文の執筆

- ・卒業論文の全体的形式を整える。

## 評価

卒業研究(提出された卒業論文)(70点)を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢(30点)などを総合的に判断する。

## 授業外学習

- 【事前予習】文献にあたり、研究を深める。
- 【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】
- 【推薦書】
- 【参考図書】

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。

他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り 組み進める。

9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に震度の目安を持って進めて いく。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、震度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、薦める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。その過程では、発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。

後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かしながら、研究をまとめるために必要な情報収集、 調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等 )
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中のづ表の作成及び論文の執筆

- ・卒業論文の全体的形式を整える。

## 評価

卒業研究(提出された卒業論文)(70点)を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢(30点)などを総合的に判断する。

## 授業外学習

- 【事前予習】文献にあたり、研究を深める。
- 【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】
- 【推薦書】
- 【参考図書】

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。

他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り 組み進める。

9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に震度の目安を持って進めて いく。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、震度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、薦める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。その過程では、発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。

後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かしながら、研究をまとめるために必要な情報収集、 調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等 )
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中のづ表の作成及び論文の執筆

- ・卒業論文の全体的形式を整える。

## 評価

卒業研究(提出された卒業論文)(70点)を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢(30点)などを総合的に判断する。

## 授業外学習

- 【事前予習】文献にあたり、研究を深める。
- 【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】
- 【推薦書】
- 【参考図書】

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。

他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り 組み進める。

9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に震度の目安を持って進めて いく。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、震度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、薦める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。その過程では、発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。

後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かしながら、研究をまとめるために必要な情報収集、 調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等 )
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中のづ表の作成及び論文の執筆



- ・卒業論文の全体的形式を整える。

## 評価

卒業研究(提出された卒業論文)(70点)を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢(30点)などを総合的に判断する。

## 授業外学習

- 【事前予習】文献にあたり、研究を深める。
- 【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】
- 【推薦書】
- 【参考図書】

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。

他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り 組み進める。

9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に震度の目安を持って進めて いく。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、震度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、薦める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。その過程では、発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。

後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かしながら、研究をまとめるために必要な情報収集、 調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等 )
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中のづ表の作成及び論文の執筆

- ・卒業論文の全体的形式を整える。

## 評価

卒業研究(提出された卒業論文)(70点)を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢(30点)などを総合的に判断する。

## 授業外学習

- 【事前予習】文献にあたり、研究を深める。
- 【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】
- 【推薦書】
- 【参考図書】

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。

他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り 組み進める。

9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に震度の目安を持って進めて いく。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、震度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、薦める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。その過程では、発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。

後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かしながら、研究をまとめるために必要な情報収集、 調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等 )
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中のづ表の作成及び論文の執筆

- ・卒業論文の全体的形式を整える。

## 評価

卒業研究(提出された卒業論文)(70点)を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢(30点)などを総合的に判断する。

## 授業外学習

- 【事前予習】文献にあたり、研究を深める。
- 【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】
- 【推薦書】
- 【参考図書】

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。

他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り 組み進める。

9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に震度の目安を持って進めて いく。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、震度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、薦める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。その過程では、発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。

後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かしながら、研究をまとめるために必要な情報収集、 調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等 )
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中のづ表の作成及び論文の執筆

- ・卒業論文の全体的形式を整える。

## 評価

卒業研究(提出された卒業論文)(70点)を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢(30点)などを総合的に判断する。

## 授業外学習

- 【事前予習】文献にあたり、研究を深める。
- 【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】
- 【推薦書】
- 【参考図書】

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。

他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り 組み進める。

9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に震度の目安を持って進めて いく。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、震度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、薦める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。その過程では、発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。

後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かしながら、研究をまとめるために必要な情報収集、 調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等 )
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中のづ表の作成及び論文の執筆



- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

## 評価

卒業研究(提出された卒業論文)(70点)を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢(30点)などを総合的に判断する。

## 授業外学習

- 【事前予習】文献にあたり、研究を深める。
- 【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】
- 【推薦書】
- 【参考図書】

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。

他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り 組み進める。

9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に震度の目安を持って進めて いく。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、震度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、薦める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。その過程では、発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。

後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かしながら、研究をまとめるために必要な情報収集、 調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等 )
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中のづ表の作成及び論文の執筆

- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

## 評価

卒業研究(提出された卒業論文)(70点)を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢(30点)などを総合的に判断する。

## 授業外学習

- 【事前予習】文献にあたり、研究を深める。
- 【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】
- 【推薦書】
- 【参考図書】

その都度、推薦して提示する。